大学の世界展開力強化事業（平成３０年度採択）
令和４年度フォローアップ調査票

【タイプA】

<table>
<tr><td>大学名
（○が代表大学）</td><td colspan="5">千葉大学</td></tr>
<tr><td>主たる交流先</td><td>米国</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="4">COILを使用した日米ユニーク・プログラム</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="4">Japan-U.S. Unique Program by COIL (COIL JUSU)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>渡邉　　誠</td><td>（所属・職名）</td><td colspan="2">理事（教育・国際担当）</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="12">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用
https://las.chiba-u.jp/jusu/

１．取組内容の進捗状況　【（1）と（2）で1ページ以内、（3）と（4）で2ページ以内、（5）は1ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

本年度は4年目であり、COVID-19の深刻な影響を受けるに至ってから2年目となるが、19コース38科目まで順調に開講科目数を増加させるに至った。今年度は、COIL-JUSUプログラムのアセアン諸国等への地理的拡大が目標となったが、マヒドン大学インターナショナルカレッジとの連携、ウガンダの大学との国際協働学修の試行など、日米＋αの取り組みの足がかりを得たと言える。また、看護学部、工学部、教育学部では、引き続き社会実装を視野に入れた実践的な科目の充実が進展した。さらに、園芸学部の複数の取り組み、亥鼻キャンパスにおける医学部･薬学部･看護学部による専門職協働プログラムの開発が進行中であり、実渡航再開に向けて準備が整いつつある。今年度のCOIL参加者数は、千葉大学445名、米国4大学合計298名であり、引き続き計画における目標値であった240名、120名をそれぞれ大幅に上回る水準で推移している。今後は、対面とメディア授業を併用するハイブリッド型の留学プログラム開発にこれまでの蓄積を生かしていく予定である。

【特に優れた取組】

LAS Major Project Workは国際教養学部の卒業論文を英語で発信する取り組みであり、渡航して発表する予定であったが、学生自身がビデオ･プレゼンテーションの撮影･編集にあたり、オンラインQ&A当日の司会は3年生の学生が務めた。英語による発信の場を自ら設定するという貴重な経験により、グローバルな社会への足がかりを得る機会となった。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

本取り組みの蓄積を生かして、国際教養学部中心にASEAN諸国とのプログラム拡大やダブル･ディグリーを視野に入れた取り組みが進んでおり、さらに充実した体制で学生の国際協働学修に対応することができるようになりつつある。2019年から国際学術研究院の石戸光教授がマヒドン大学インターナショナルカレッジ（MUIC）の客員教授、MUICのDr. Alexander Nanniが本学の特命教授に任命され、両大学の交流のサポート体制がより強固なものとなっている。

【特に優れた取組】

マヒドン大学インターナショナルカレッジとの取り組みとして、2022年2月、Career Path and Job Rotation System at Japanese and Thai Universitiesをテーマに共同で オンライン職員研修を実施した。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

2022年度の学生受入･派遣の再開に向けた調整のため、1月にアラバマ大訪問を予定していたが、オミクロン株拡大のため中止を余儀なくされた。しかし、2022年4月に改めて訪問する予定が立っており、アラバマ大学での対面授業の実施状況や日米間の水際対策に関するUniversity Medical Centerとの調整など実質的な協議を含め、着実に実渡航を見据えた準備が進んでいる。

【特に優れた取組】

Professional Studies at the National Museum of Japanese Historyでは複数の連携米国大学との協働プログラムを構築し、アメリカの中の東部、中西部、南部の歴史認識の違いなども交え、国立歴史民俗博物館における日本の歴史展示をめぐって議論するオンライン実習を実施した。来年度は博物館に併設されている植物園（古代から染料などに利用された植物、江戸の園芸技術による改良品種などを栽培）の見学などを含め、園芸学部とも連携したプログラムにバージョンアップすることを検討している。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

2020年度より学部･大学院生の全員留学をめざす「グローバル人材育成ENGINE」がスタートしたが、COVID-19の広がりと時を同じくしたため、オンラインを活用した代替プログラムにはCOIL-JUSUでの経験が生かされた。今後の留学においても、対面とメディア授業を併用するハイブリット型を取り入れることを検討している。これまで距離や治安、衛生面などから留学のハードルが高かったアフリカや南米などの大学との交流が可能となり、国際化がさらに促進された。

【特に優れた取組】

園芸学部による試行的プログラムにおいてSDGsをテーマに、日本、米国、ウガンダのマルチラテラルな取り組みが実施された。ウガンダのWetlandの環境保護に関する講義を踏まえて、学生同士のオンライン･ディスカッションが実施され、グローバルサウスとの協働を実践する貴重な機会となった。

（2）特記すべき成果

文学部がシンシナティ大学と共同開講するExploring Religion and Culture in Japanの本格的なDX化が進んだことである。元来、受入プログラムとして開始され、対面での活動に重点が置かれていたが、コロナ禍を機にLMSとしてCOIL-Moodleを本格的に利用するようになり、非同期によるオンラインの双方向の活動が充実することになった。千葉大学生側は、日本の言語･文化、学生の日常、ポップカルチャーなどのテーマを決めて動画を作成、日本語と英語の字幕を付すなどの工夫を行った。日本に興味を持ち、知識のある学生が多いため、コメントの内容は多岐に及び、ランゲージエクスチェンジの要素も強い交流が出来た。この経験を広く共有するため、シンシナティ大学教員によるオンライン講演会も企画中である。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

COIL-Moodleの運営が軌道に乗り、19プログラム中8プログラムで利用されるようになっている。COILのためのオンライン･ツールには様々なものがありそれぞれその特徴や長所を生かした利用がなされているが、Moodleは千葉大学において長く利用されてきたLMSであり、これを利用することによりCOILへのハードルを引き下げることに貢献している。数日間の短期プログラムとは異なり、1ターム8週間が基本となるため、非同期の活動の工夫が重要であり、Moodleの機能を利用したさまざまな取り組みがなされた点が成果と言える。

２．交流学生数の実績等【（1）（2）（3）それぞれ２ページ以内】

（1）本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計１）		15 人	20 人	25 人	25 人	25 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		15 人	20 人	22 人	22 人	22 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	15 人	20 人	22 人	22 人	22 人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	3 人	3 人	3 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	3 人	3 人	3 人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計２）		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（A=小計１＋２）		15 人	20 人	25 人	25 人	25 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		15 人	20 人	22 人	22 人	22 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	15 人	20 人	22 人	22 人	22 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	3 人	3 人	3 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	3 人	3 人	3 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②日本人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数（B）	17　人	64人　人			35人　人			30人　人			0人　人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		64人	0人	0人	0人	35人	0人	0人	30人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】													
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流	17 人	64 人	0 人	0 人	0 人	35 人	0 人	0 人	30 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	17 人	64 人	人	人	人	35 人	人	人	30 人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（B/A）	113.3%	320.0%			140.0%			120.0%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

渡航を前提としたプログラムも引き続きオンラインでの実施を余儀なくされた。オンライン・プログラムへの抵抗感は顕著に減っており、日本政府の政策により派遣・受入が困難である状況を双方の学生が理解した上で、積極的な交流が進展したと言える。但し、来年度以降、実渡航が復活する可能性なども徐々に視野に入ってきたこともあり、それが昨年度より参加者がやや減少した要因であると考えられる。

計画段階ではニュースクール大学、シンシナティ大学、アラバマ大学への派遣プログラムが予定されていた。ニュースクール大学への派遣プログラムはData Visualization and Machine LearningとDisaster Prepardnessの2プログラムで、前者は新しい製品や体験のデザインに向けた機械学習技術の可能性と応用を、データの可視化という文脈から探求するものである。人工的なエージェントと人間のデザイナーの間の共同創造的なアプローチを探求する意欲的なプログラムで、データビジュアライゼーションに基づく体験を、ユーザーの感情的な知覚や影響に着目してデザインするために、感情やセンチメント分析技術の可能性と、現在のモデルや技術におけるバイアスから派生する意味を探ることを課題としていた。シンシナティ大学への派遣プログラムは「実践デザイン演習B」であり、製造可能性とエコロジカル、ユニバーサルな視点を持ちながら、ユーザーの体験の質と価値を高めるために、パッケージデザインの知覚的、文化的、および実用的な考慮事項を調査して統合することを目標とするプログラムであった。アラバマ大学とのプログラムは、Global Health and Nursing, LAS Major Project Workの2プログラム である。Global Health and Nursingは異なる社会・文化環境の中で生活している人々との共通点や相違点を検討することを通じて、異なる社会・文化的背景を持つ多様な人々の健康や病気に対する考え方や反応、その地域特有の生活様式を学び、異文化に対する文化的感性を養うことを目的とするものであった。

いずれのプログラムもオンラインによる実施においても着実な成果を上げており、実渡航が可能になれば充実したオンライン国際協働学修を生かした魅力的なプログラムとなり、多くの受講生を引きつけるものとなると期待される。LAS Major Project Workは国際教養学部の卒業論文を英語で発信する取り組みであり、渡航して発表する予定であったが、学生自身がビデオ・プレゼンテーションの撮影・編集にあたり、オンラインQ&A当日の司会は３年生の学生が務めた。英語による発信の場を自ら設定するという貴重な経験により、グローバルな社会への足がかりを得る機会となった。

【特に優れた取組】
Global Health and Nursingプログラムでは、まさに現在、全世界が直面しているCovid-19への対応をテーマに取り上げた。Module 1 で医療制度の違いを踏まえた上で、ワクチン忌避の状況の文化・社会による違いを分析し、 Module 3ではその克服について議論した。日米で異なるパンデミックへの対応に関しての実践的なプログラムでオンラインを通じて学生の学びの深化に寄与した。

（2）本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計３）			15 人	20 人	25 人	25 人	25 人
【交流形態別　内訳】							
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			15 人	20 人	22 人	22 人	22 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	15 人	20 人	22 人	22 人	22 人
		無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	3 人	3 人	3 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	3 人	3 人	3 人
		無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計4）			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
【交流形態別　内訳】							
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人

●合計人数

			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（C=小計3＋4）			15 人	20 人	25 人	25 人	25 人
【交流形態別　内訳】							
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			15 人	20 人	22 人	22 人	22 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	15 人	20 人	22 人	22 人	22 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	3 人	3 人	3 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	3 人	3 人	3 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②外国人学生数の実績

		2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数（D）		16 人	38人 人			28人 人			25人 人			0人 人		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
			38人	0人	0人	0人	28人	0人	0人	25人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】														
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		15 人	37 人	0 人	0 人	0 人	28 人	0 人	0 人	25 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	15 人	37 人	人	人	人	28 人	人	人	25 人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		1 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	1 人	1 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（D/C）		106.7%	190.0%			112.0%			100.0%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

派遣と同様、受け入れを前提としたプログラムも引き続きオンラインでの実施を余儀なくされた。計画段階では、アラバマ大学、ストーニーブルック大学、シンシナティ大学、ニュースクール大学のすべての連携大学からの受け入れを予定していた。

アラバマ大学とのプログラムは、Social Studies Education,「マンガの翻訳と受容」の2プログラムであり、Social Studies Educationでは「グローバル教育と社会科」をテーマに据え、日米両国における社会科教育の特徴と、その文化的・歴史的背景の分析をめざした。地球的課題の捉え方が日米間でどのように異なるのかを知り、そのことに社会科教育のあり方がどのように影響してきたのかを考える機会となった。

シンシナティ大学とのプログラムはExploring Religion and Culture in Japanである。コロナ禍を機にLMSとしてCOIL-Moodleを本格的に利用するようになり、非同期によるオンラインの双方向の活動が充実することになった。千葉大学生側は、日本の言語・文化、学生の日常、ポップカルチャーなどのテーマを決めて動画を作成、日本語と英語の字幕を付すなどの工夫を行った。日本に興味を持ち、知識のある学生が多いため、コメントの内容は多岐に及び、ランゲージエクスチェンジの要素も強い交流が出来た。

Professional Studies at the National Museum of Japanese Historyでは複数の連携米国大学（ストーニーブルック大学、シンシナティ大学、アラバマ大学）の受け入れを予定しており、アメリカの中の東部、中西部、南部の歴史認識の違いなども交え、日本の歴史展示をめぐって議論する実習となる予定であった。実移動が困難であったため、国立歴史民俗博物館の第３室において前館長が案内をする形式のvirtual tourを撮影・編集し、オンライン実習を実施した。来年度は併設されている植物園（古代から染料などに利用された植物、江戸の園芸技術による改良品種などを栽培）の見学などを含め、園芸学部とも連携したプログラムにバージョンアップすることを検討している。

【特に優れた取組】
Professional Studies at the National Museum of Japanese Historyでは、千葉大生が国立歴史民俗博物館を訪問して各自の視点から数点の展示にフォーカスしてビデオ・プレゼンテーションを作成した。それぞれの受けてきた歴史教育を振り返りつつ、歴博の展示の優れた点、さらに構成にどのような工夫をすると外国からの訪問者の理解を促進できるかなどが話し合われ、充実したディスカッションとなった。

（３）　その他（上記（１）・（２）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（4）本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：千葉大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	6

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	8	8	16	16	24
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	14	17	28	31	42
全授業科目数（B）	6800	6800	6800	6800	6800
割合（A/B）	0.2%	0.3%	0.4%	0.5%	0.6%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	120	120	240	240	360
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	60	60	120	120	180

（ii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：千葉大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	9	26	30	38	
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	15	34	38	46	
全授業科目数（B）	6193	6445	6163	6281	
割合（A/B）	0.2%	0.5%	0.6%	0.7%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	66	402	412	445	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	53	210	174	298	

（ii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iv）事業全体の合計

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	6

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	8	8	16	16	24
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	14	17	28	31	42
全授業科目数（B）	6800	6800	6800	6800	6800
割合（A/B）	0.2%	0.3%	0.4%	0.5%	0.6%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	120	120	240	240	360
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	60	60	120	120	180

（iii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iv）事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	9	26	30	38	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	15	34	38	46	0
全授業科目数（B）	6193	6445	6163	6281	0
割合（A/B）	0.2%	0.5%	0.6%	0.7%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	66	402	412	445	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	53	210	174	298	0

（5）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ⅰ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：千葉大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
アラバマ大学	認定者数	4	6	7	7	7
	認定単位数	1	3	4	4	5
シンシナティ大学	認定者数	5	6	8	8	8
	認定単位数	1	3	4	4	5
ニュースクール大学	認定者数	3	4	5	5	5
	認定単位数	1	3	4	4	5
ストーニーブルック大学	認定者数	3	4	5	5	5
	認定単位数	1	3	4	4	5
年度別認定者数合計		15	20	25	25	25
年度別認定単位合計		4	12	16	16	20

2. 国内連携大学　【大学名：　　　大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

（ⅰ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2018年度		2019 年度		2020 年度		2021年度		2022年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0		

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ⅰ）代表申請大学　【大学名：千葉大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
アラバマ大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
シンシナティ大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
ニュースクール大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
ストーニーブルック大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　　大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成３０年度採択）
令和４年度フォローアップ調査票

【タイプA】

<table>
<tr><td>大学名
（○が代表大学）</td><td colspan="5">東京大学</td></tr>
<tr><td>主たる交流先</td><td>米国</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="4">日米のCOIL型教育を活用した先端ワールド・グローバル工学人材養成プログラム</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="4">Japan-America Program for COIL-style Education of World-leading Global Engineering Specialists</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td colspan="2">染谷　隆夫</td><td>（所属・職名）</td><td>工学系研究科長</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="4">平成31年4月1日</td></tr>
<tr><td rowspan="13">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td>クレムソン大学</td><td>Clemson University</td><td>米国</td></tr>
<tr><td>2</td><td>カリフォルニア工科大学</td><td>Calfornia Institute of Technology （Caltech）</td><td>米国</td></tr>
<tr><td>3</td><td>スウェーデン王立工科大学</td><td>KTH Royal Institute of Technology</td><td>スウェーデン</td></tr>
<tr><td>4</td><td>プリンストン大学</td><td>Princeton University</td><td>米国</td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用
http://ja-coil-weng.t.u-tokyo.ac.jp/

１．取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で１ページ以内、（３）と（４）で２ページ以内、（５）は１ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

「東大 - MIT国際講義」では、オンラインでの充実した講義が実現し、MITとの交換留学では、COVID19感染状況が落ち着いた時期に派遣を実施することができた。また、連携校との言語交換プログラム、文化交流プログラムを単位が付与される授業科目として3科目開講した。実渡航の人数を増やすことが課題であり、 2022年度はCOVID-19の収束状況を見極めながら、可能な限り実渡航の人数を増やしていきたい。

【特に優れた取組】

MIT、KTHとのオンラインによる言語交換・文化交流プログラムには、工学部のみならず全学から今年度も多数の学生が参加し、工学部全体、大学全体へプログラムの効果を波及させることができた。実渡航ができない状況下において、多くの学生の関心に応えることができ、学生の海外への意識を高めることができた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

工学系分野での世界トップ校であるCaltech、KTHを昨年連携校として追加したが、2021年度にはさらに世界のトップ校であるプリンストン大とCOIL型講義を開始することで合意した。また、外部評価会議を2022年1月に開催し、本事業、および補助事業終了後の財源確保等に関する意見・アドバイスを受けた。外部評価会議でのフィードバックを参考に、次年度以降の事業の改善に取り組む。

【特に優れた取組】

KTHとは文化交流プログラムの他、Deans' Forum Language Tandem言語交換プログラム、また、オンラインで行う国際的な共同授業"Mechanical Engineering Seminar II"を実施した。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

交換留学以外の海外渡航ができなかったため、留学先での学習環境を想定したオンラインでの英語集中講座を、本事業のプログラム参加者のうちの希望者を対象として実施した。2022年度は本調査票執筆時点では米国・日本においてはCOVID-19の影響が収束傾向にあり、日本政府や大学の方針を確認し、十分な対策を行って外国人学生の受入及び日本人学生の派遣を実施したい。

【特に優れた取組】

工学研究科全体で、海外大学学生との言語交流、文化交流、留学報告会・体験会、留学生との交流会等のイベントがオンラインで多数企画された。COVID-19収束後を見据えて、海外留学への関心を喚起し、また対面での活動が難しい中で少しでも学生が交流ができるよう努めた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本事業のウェブサイトをプログラムの広報に活用しているほか、交換留学で派遣された学生の報告書を、MIT留学への関心喚起と情報提供に利用している。後述の「東京大学工学部・工学系研究科国際交流ガイド」を作成し、工学部進学者全員に配布した。2022年度はさらにパンフレットやウェブサイトの情報の整理・拡充を進めたい。

【特に優れた取組】

本事業を含む様々な国際関連の講義・プログラム・課外活動・イベントなどの情報を集約し、体系化して紹介するパンフレット「東京大学工学部・工学系研究科国際交流ガイド」を作成し、工学部進学者全員に配布した。学生が目的、レベルに合うプログラムを俯瞰して探すことができるようになった。

（2）特記すべき成果

「東大 - MIT国際講義」を2年次に受講した学生3名が2021年度にMITへの交換留学制度により9月から派遣され、無事帰国した。「世界での活躍を志向した資質や能力の必要性を早くから学部学生に実感させ、留学意識を高める」というプログラムの目的が達成される一例となった。また、KTHと本学、両大学の課題解決のためにDXでの新しい試みを探り、KTHとの国際共同モジュール"Mechanical Engineering Seminar II"を実施した。世界中で内容のあまり違わない学部生の基幹講義（例えば流体力学）を対象とし、それに付随するモジュールとすることで、双方のプログラムを変えることなく、対等に共同運営することができ、学部生に他国の学生と共同作業をする経験を与えることが可能となった。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

・「東大 - MIT国際講義」ではZOOMを活用したが、ブレイクアウトルームを効果的に使用して学生間の交流を図った。
・「COIL型教育：国際化教育」では、MITやKTH等と2020年度よりオンライン国際交流プログラムを開始し、多様な背景を持つ相手との国際的な協働プロジェクトにおいて必要となるコミュニケーション能力を向上させ、併せて異文化理解の促進を図っている。各自のオンラインセッションについては、各回の報告（質問項目に応える形の書式を指定）を共有フォルダに提出してもらい、全員がクラスメートの報告にアクセスできるようにした。またディスカッションを続けるのに役立つ頻出英語表現についてリストを準備して、各自で書き込みを追加でき、いつでも利用できるようにした。各校とのプログラムの途中および終了後には、本学学生だけの全体演習を行って、各自の交流経験を振り返り、お互いのフィードバックを共有した。
・「Caltechとの言語交換プログラム」では、参加メンバーとの交流を活発化させるため、今年度新たに”Friendship Session”を設けた。学生・教員が参加して、様々なテーマを話し合い、友好を深める機会となった。
・KTH側の課題「学生が自ら考える能力が不足していること」、本学側の課題「学生の国際的なEarly Exposureが足りないこと」という両大学の課題解決のためにDXでの新しい試みを探り、KTHとの国際共同モジュールを実施した。
・交換留学以外の海外渡航ができなかったため、留学先での学習環境を想定したオンラインでの英語集中講座を、本事業のプログラム参加者のうちの希望者を対象として実施した。プログラム策定においては、本学教員が内容を事前に精査した上、実際に留学した先での環境に即した内容になるよう調整した。

２．交流学生数の実績等【（１）（２）（３）それぞれ２ページ以内】

（１）本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計１）		20 人	35 人	40 人	50 人	55 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		15 人	30 人	35 人	45 人	50 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	15 人	30 人	35 人	45 人	50 人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		5 人	5 人	5 人	5 人	5 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	5 人	5 人	5 人	5 人	5 人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計２）		0 人	2 人	2 人	4 人	6 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	1 人	1 人	2 人	2 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	1 人	1 人	2 人	2 人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	1 人	1 人	2 人	4 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	1 人	1 人	2 人	4 人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（A=小計１＋２）		20 人	37 人	42 人	54 人	61 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		15 人	31 人	36 人	47 人	52 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	15 人	31 人	36 人	47 人	52 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		5 人	5 人	5 人	5 人	5 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	5 人	5 人	5 人	5 人	5 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	1 人	1 人	2 人	4 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	1 人	1 人	2 人	4 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②日本人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数（B）	39　人	28人		人	50人		人	85人		人	0人		人
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		28人	0人	0人	0人	50人	0人	3人	82人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】													
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流	34 人	21 人	0 人	0 人	0 人	6 人	0 人	0 人	82 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	34 人	21 人	人	人	人	6 人	人	人	82 人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流	5 人	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	5 人	0 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	3 人	人	人	人	人	人	3 人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流	0 人	4 人	0 人	0 人	0 人	44 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	人	4 人	人	人	人	44 人	人	人	人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（B/A）	195.0%	75.7%			119.0%			157.4%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

現状の分析・現状の課題：前年度1科目のみであったCOIL型講義数が４科目に増加した。また、コロナ禍にあって様々なプログラムをオンラインを活用して実施したこともあり、日本人学生数の実績については、達成目標を上回っており、順調に推移している。実渡航の人数を増やすことが課題である。

今後の展望： 2022年度はCOVID-19の収束状況を見極めながら、可能な限り実渡航の人数を増やしていきたい。また、本学システム創成学科とMIT原子力学科とで既存のe-learningシステムを活用した講義を2022年度内に開講予定である。

【特に優れた取組】
・「東大 - MIT国際講義」を2年次に受講した学生3名が2021年度にMITへの交換留学制度により9月から派遣され、無事帰国した。「世界での活躍を志向した資質や能力の必要性を早くから学部学生に実感させ、留学意識を高める」というプログラムの目的が達成される一例となった。MITからの評価も極めて高く、コロナ禍においても感染状況をしっかりと見極めながら、実際に派遣を実施できた意義は大きい。3名ともMITにて単位を取得し、帰国後に本学での単位認定を受けた。

（2）本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計３）		15 人	40 人	40 人	55 人	55 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	15 人	15 人	25 人	25 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	15 人	15 人	25 人	25 人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		5 人	5 人	5 人	5 人	5 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	5 人	5 人	5 人	5 人
	無	5 人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		10 人	20 人	20 人	25 人	25 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	10 人	20 人	20 人	25 人	25 人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計4）		0 人	1 人	2 人	4 人	6 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	1 人	1 人	2 人	2 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	1 人	1 人	2 人	2 人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	1 人	2 人	4 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	1 人	2 人	4 人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（C=小計3＋4）		15 人	41 人	42 人	59 人	61 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	16 人	16 人	27 人	27 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	16 人	16 人	27 人	27 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		5 人	5 人	5 人	5 人	5 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
	無	5 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		10 人	20 人	21 人	27 人	29 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	10 人	20 人	21 人	27 人	29 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②外国人学生数の実績

		2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数（D）		16 人	15人 人			30人 人			82人 人			0人 人		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
			15人	0人	0人	0人	30人	0人	0人	82人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】														
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	14 人	0 人	0 人	0 人	24 人	0 人	0 人	82 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	14 人	人	人	人	24 人	人	人	82 人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		5 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	0 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	5 人	1 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		11 人	0 人	0 人	0 人	0 人	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	11 人	人	人	人	人	6 人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（D/C）		106.7%	36.6%			71.4%			139.0%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

現状の分析・現状の課題：日本のCOVID-19対策による入国制限のため、2021年度もMITとの交換留学での受入が中止となり、単位取得を伴う3ヵ月以上の受入は実施できなかった。実渡航が実施できないため、既述のとおり、昨年度から引き続きオンラインで実施できる交流に注力し、国際化教育で昨年から実施しているKTHとの文化交流プログラムにはKTH学生が春学期に36名、秋学期に29名の学生が参加した。KTH側ではすでに単位付きの授業の一部として実施している。Caltechとの言語交換プログラムには6名が参加した。その結果、外国人学生数の実績達成目標を上回っており、順調に推移している。実渡航の人数を増やすことが課題である。

今後の展望：2020年度から引き続き、国際化教育の言語交換・文化交流プログラムをMIT、Caltech、KTHと実施し、外国人学生の受講者数の増加、魅力あるプログラムの増加を図っており、2022年度も引き続き多くの外国人学生が参加できるよう準備を進めたい。 2022年度はCOVID-19の収束状況を見極めながら、可能な限り実渡航の人数を増やしていきたい。また、本学システム創成学科とMIT原子力学科とで既存のe-learningシステムを活用した講義を2022年度内に開講予定である。

【特に優れた取組】
外国人学生（KTH学生）の課題「学生が自ら考える能力が不足していること」、本学側の課題「学生の国際的なEarly Exposureが足りないこと」という両大学の課題解決のためにDXでの新しい試みを探り、KTHとの国際共同モジュールを実施した。世界中で内容のあまり違わない学部生の基幹講義（例えば流体力学）を対象とし、それに付随するモジュールとすることで、双方のプログラムを変えることなく、対等に共同運営することができ、KTH学生・本学学生の双方に他国の学生と共同作業をする経験を与えることが可能となった。

（3） その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2021年8－9月	夏季集中英語講座	9 人
2021年4月	東大－KTH Deans' Forum Language Tandemオンライン言語交換プログラム	20 人
		人
		人

（4）本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：東京大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	3	3	4	4
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（Ａ）	11	12	12	13	13
全授業科目数（Ｂ）	13200	13200	13200	13200	13200
割合（Ａ/B）	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	35	55	60	70	70
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	15	40	45	55	60

（ii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（Ａ）					
全授業科目数（Ｂ）					
割合（Ａ/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：東京大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	1	1	4	
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（Ａ）	11	13	13	20	
全授業科目数（Ｂ）	13200	13200	13200	13200	
割合（Ａ/B）	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	43	26	50	82	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	16	14	51	89	

（ii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（Ａ）					
全授業科目数（Ｂ）					
割合（Ａ/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iv）事業全体の合計

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	0

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	3	3	4	4
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	11	12	12	13	13
全授業科目数（B）	13200	13200	13200	13200	13200
割合（A/B）	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	35	55	60	70	70
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	15	40	45	55	60

（iii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iv）事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	1	1	4	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	11	13	13	20	0
全授業科目数（B）	13200	13200	13200	13200	0
割合（A/B）	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	43	26	50	82	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	16	14	51	89	0

（5）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　　（単位：校）

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
マサチューセッツ工科大学	認定者数	5	5	5	5	5
	認定単位数	55	55	55	55	55
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		5	5	5	5	5
年度別認定単位合計		55	55	55	55	55

2. 国内連携大学　【大学名：　大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　　（単位：校）

	2018年度		2019 年度		2020 年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	1	1	1	1	0	0	1	0		

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
マサチューセッツ工科大学	認定者数	5	3	0	3	
	認定単位数	65.5	41	0	14	
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		5	3	0	3	0
年度別認定単位合計		65.5	41	0	14	0

2. 国内連携大学　【大学名：　大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成３０年度採択）
令和４年度フォローアップ調査票

【タイプA】

<table>
<tr><td>大学名
（○が代表大学）</td><td colspan="4">○東京外国語大学、国際基督教大学</td></tr>
<tr><td>主たる交流先</td><td>米国</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="3">多文化主義的感性とコンフリクト耐性を育てる太平洋を越えたCOIL型日米教育実践</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="3">TransPacific Collaborative Online International Learning for Multiculturalism and Conflict-Resilience</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>松隈　潤</td><td>（所属・職名）</td><td>副学長</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="3">2022年4月1日</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="12">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用
http://www.tufs.ac.jp/tp-coil/

１．取組内容の進捗状況　【（1）と（2）で１ページ以内、（3）と（4）で２ページ以内、（5）は１ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

・【COIL型教育】2021年度の連携校間（東京外大・ICU）のCOIL授業科目数は目標値を超過達成（目標値14／実績22）、多岐にわたるラインナップを提供し、COIL型教育の受講者数の増加に寄与した（2020年度比：日本人学生+88名、外国人学生数+231名）。
・【COIL型教育からの連続としての学生交流】中長期交流としては、39名の学生が実渡航、1名の学生がオンラインにより中長期派遣され、2名の学生をオンラインにより中長期受入した。また、短期交流としては、22名の学生がオンラインプログラムによる派遣（「Language Exchange」6名、「Dream tour to Japan」6名、就業体験科目10名）、22名の学生がオンラインプログラムによる受入（「Language Exchange」9名、「Dream tour to Japan」5名、オンラインインターンシッププログラム3名、就業体験科目5名）をした。
・【インターンシップ・プログラム】オンラインによる就業体験科目1件、日本企業でのオンラインインターンシップ1件、また、米国におけるインターンシップの機会1件を、日米の学生に提供した。
・2022年度は、より実渡航を伴う交流を活発化すると共に、オンラインのプログラムも引き続き実施する予定。

【特に優れた取組】
・COIL型教育において、昨年度開発した「教室接続型」、「授業開放型」、「課外活動型」という類型において、前年度に比してさらに多くのCOIL型教育を企画・実施し、教授内容に合わせ同期・非同期を混在させ最適なデザインで学生に提供した。
・オンラインを活用した授業やプログラムを安定化させることで、日米学生の相互理解や共同学習の機会を確保した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

・米国連携大学の教員とオンラインプログラムや意見交換等を随時実施した。また、7月に事業統括を行う第4回日米TP-COIL協議会、3月に外部の専門家を交えた外部評価委員会を開催しプログラムの調整や改善を行った。

【特に優れた取組】
・アメリカにとどまらず、南太平洋のバヌアツ等の他国との連携の可能性を模索し、大学間交流の維持・拡充を行うことで、COIL科目の発展とCOIL教育の地域的波及に寄与した。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・（米国連携校からの受入）連携校の留学担当課との連絡体制を維持し、状況や情報を逐次共有している。
・（日本人学生の派遣）本事業に関する日本の学生向けの説明会を春・秋に開催した。

【特に優れた取組】
・日米学生向けに、参加校を前年度の2校から5校に拡大して「Language Exchange」を実施した。また、Language Exchangeからの参加者を対象とした学生主体の交流プログラム「Dream tour to Japan」を実行した。加えて、日本に関するオンラインスタディツアー、オンラインインターンシップの機会を提供した。COIL型教育の「課外活動型」に分類されるこれらの活動により、自国にいながらにして学生および日米の間での相互理解の促進を実現した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

・（国際化）COIL手法を学内にも普及させ、前年度より多くの国際的なオンライン学習・交流の機会を提供した。
・（情報の公開、成果の普及）本事業及び大学内のホームページ上で日本語、英語により国内外へタイムリーに情報発信を行った。また、COIL型教育のノウハウをシンポジウムやイベント等を通し他の展開力事業や大学全体へと普及させた。

【特に優れた取組】
・2021年12月11日に関西大学IIGE国際フォーラム2021でTP-COILの活動内容を発表し、他大学に共有した。実渡航による学生交流と日本でのインターンシップの代替措置として実施した「Langauge Exchange」「Dream Tour to Japan」「オンラインインターンシップ」の活動を発表し、これらの活動は感染症が落ち着いた後にも有効な国際交流活動になり得ることを紹介した。
・2022年3月8日の関西大学主催の第2回JPN-COIL協議会に出席し、本事業のCOIL型教育の内容、成果、評価方法について発表、他大学に共有、意見交換を行った。

（2）特記すべき成果

・前年度開発したCOIL型教育の類型を定着化させた上で、さらに豊富なCOIL型教育を提供。アメリカ以外の国・地域の大学ともCOIL型教育を実施することで学生に多様な機会を提供した。「教室接続型」では、非同期・同期の形式を交えて教室同士を接続してCOIL型教育を実施し学生の学びの機会を拡大した。「授業公開型」では、インターンシップ機能を持たせた就業体験科目に加え、国際開発の授業も提供し、日米の学生が履修し共同学習した。「課外活動型」では「Language Exchange」、「Dream tour to Japan」、「オンラインスタディーツアー」等の機会を提供した。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

・「授業開放型」として前年度から開講されている就業体験科目に加え、2021年度は国際開発に関する授業を新規に開講した。日米の学生が正式に履修し協働して学び会えることから、授業の場で多角的な意見が出て学生の学びの幅が広がった。オンラインの性質を生かしながら、実渡航と同様に日米学生が共同で授業を受けられる好例が増加した。
・「課外活動型」の「Language exchange」、「Dream tour to Japan」は日米の学生のオンライン交流プログラムとしてシリーズ化し、Language exchangeの参加者からDream tour to Japanの参加者を募り実施した。Dream tour to Japanでは、学生が日米混成チームを組み、理想の日本旅行について調査し計画、発表した。日本を旅行することについて調べることで日本の地域を学び、日本の学生と主体的に協働することにより日本理解が促進された。
・日本の中小企業でのインターンシップをオンラインにより実現した。日本語やビジネスを専攻している米国の学生が参加し、産業用ヒーターを製造する会社がアメリカでの市場を拡大するために必要な広報戦略や新商品の使途等について学生が課題を与えられ、最終的にプレゼンテーションした。学生たちは実際の課題について取り組んだため、実務に近い経験をすることができ、同社としても貴重な提案が米国学生より得ることができたとのコメントもあり、双方にとって有効な機会となった。
・本事業も4年度目となり実施内容が年々拡大、安定化してきている。感染症の影響が終了した後も、経済事情・健康等の理由で実渡航を伴う留学が制限されている学生たちにこのようなオンラインプログラムを継続することは、学生にとって有益な学習機会になることのみならず、日米学生間の関係構築の一助となるだろう。

２．交流学生数の実績等【（1）（2）（3）それぞれ２ページ以内】

（1）本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計１）		29 人	33 人	37 人	41 人	45 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		8 人	8 人	8 人	8 人	8 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	4 人	4 人	4 人	4 人	4 人
	無	4 人	4 人	4 人	4 人	4 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		21 人	25 人	29 人	33 人	37 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人
	無	20 人	23 人	26 人	29 人	32 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計２）		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（A=小計１＋２）		29 人	33 人	37 人	41 人	45 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		8 人	8 人	8 人	8 人	8 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	4 人	4 人	4 人	4 人	4 人
	無	4 人	4 人	4 人	4 人	4 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		21 人	25 人	29 人	33 人	37 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人
	無	20 人	23 人	26 人	29 人	32 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②日本人学生数の実績

		2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数（B）		52　人	66人　人			8人　人			62人　人			0人　人		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
			66人	0人	0人	0人	8人	0人	39人	23人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】														
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		14 人	19 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	10 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	7 人	18 人	人	人	人	人	人	人	10 人	人	人	人	人
	無	7 人	1 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		38 人	43 人	0 人	0 人	0 人	8 人	0 人	39 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	5 人	人	人	人	人	人	6 人	1 人	人	人	人	人
	無	38 人	38 人	人	人	人	8 人	人	33 人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	4 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	12 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	4 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	0 人	人	人	人	人	人	人	12 人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（B/A）		179.3%	200.0%			21.6%			151.2%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

■短期派遣：オンライン交流プログラムである"Language Exchange"により6名、"Dream tour to Japan"により6名、就業体験科目により10名、計22名を短期で派遣した。
■長期派遣：実渡航を伴う形で39名、オンラインを利用して1名の学生を長期で派遣した。

【特に優れた取組】
・オンライン交流プログラムの拡充とCOIL科目のさらなる充実により、日本の学生に対して米国提携大学の学生と共同で学ぶ機会を提供し、日本の学生の米国理解、英語力向上を促した。
・長期派遣が再開されることに伴い、現地でのインターンシップの機会も開拓した。

（2）本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計３）		39 人	43 人	49 人	54 人	59 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		5 人	5 人	5 人	5 人	5 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	5 人	5 人	5 人	5 人	5 人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		34 人	38 人	44 人	49 人	54 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	2 人	5 人	10 人	15 人	20 人
	無	32 人	33 人	34 人	34 人	34 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計4）		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（C=小計3＋4）		39 人	43 人	49 人	54 人	59 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		5 人	5 人	5 人	5 人	5 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	5 人	5 人	5 人	5 人	5 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		34 人	38 人	44 人	49 人	54 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	2 人	5 人	10 人	15 人	20 人
	無	32 人	33 人	34 人	34 人	34 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②外国人学生数の実績

		2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数（D）		91 人	109人 人			13人 人			24人 人			0人 人		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
			109人	0人	0人	0人	13人	0人	0人	24人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別 内訳】														
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	22 人	0 人	0 人	0 人	13 人	0 人	0 人	5 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	22 人	人	人	0 人	13 人	人	人	5 人	人	人	人	人
	無	0 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		91 人	87 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	1 人	8 人	人	人	人	人	人	人	1 人	人	人	人	人
	無	90 人	79 人	人	人	人	人	人	人	1 人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	17 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	17 人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（D/C）		233.3%	253.5%			26.5%			44.4%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

■短期受入：オンライン交流プログラムである"Language Exchange"により9名、"Dream tour to Japan"により5名、就業体験科目により5名、インターンシッププログラムにより3名、計22名を短期で受入れた。
■長期受入：オンラインにより、2名の学生を長期で受入れた。

【特に優れた取組】
・オンライン交流プログラムの拡充とCOIL科目のさらなる充実により、米国の学生に対して日本の学生と共同で学ぶ機会を提供し、米国の学生の日本理解、日本語能力向上を促した。

（3）　その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2022年2月、3月	（米国学生参加）オンラインスタディツアー	99 人
		人
		人
		人

（4）本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：東京外国語大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	3

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	6	8	8	8
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	6	9	11	11	11
全授業科目数（B）	2561	2561	2561	2561	2561
割合（A/B）	0.2%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	20	38	50	55	55
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	27	54	72	72	72

（ⅱ）国内連携大学　【大学名：国際基督教大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	0

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	5	6	6	6
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	3	5	6	6	6
全授業科目数（B）	1465	1465	1465	1465	1465
割合（A/B）	0.2%	0.3%	0.4%	0.4%	0.4%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	13	43	48	53	58
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	27	45	54	54	54

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：東京外国語大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	7	9	11	
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	7	11	18	22	
全授業科目数（B）	2289	2307	2529	2542	
割合（A/B）	0.3%	0.5%	0.7%	0.9%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	16	132	197	244	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	29	254	251	242	

（ⅱ）国内連携大学　【大学名：国際基督教大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	1	7	8	11	
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	2	8	8	13	
全授業科目数（B）	1562	1572	1443	1313	
割合（A/B）	0.1%	0.5%	0.6%	1.0%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	4	156	126	187	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	7	66	111	352	

（iii）国内連携大学　【大学名：青山学院大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	0

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	4	4	4	4
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	3	4	4	4	4
全授業科目数（B）	7020	7020	7020	7020	7020
割合（A/B）	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	13	16	18	18	18
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	27	36	36	36	36

（iv）事業全体の合計

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	3

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	9	15	18	18	18
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	12	18	21	21	21
全授業科目数（B）	11046	11046	11046	11046	11046
割合（A/B）	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	46	97	116	126	131
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	81	135	162	162	162

（iii）国内協力大学　【大学名：青山学院大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	0	0	2	5	
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	0	0	2	5	
全授業科目数（B）	7601	8019	8090	8640	
割合（A/B）	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	0	0	20	137	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	0	0	1	0	

（iv）事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	14	19	27	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	9	19	28	40	0
全授業科目数（B）	11452	11898	12062	12495	0
割合（A/B）	0.1%	0.2%	0.2%	0.3%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	20	288	343	568	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	36	320	363	594	0

（5）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　　（単位：校）

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9

（ii）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：東京外国語大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
短期留学プログラム（COIL）	認定者数	4	4	4	4	4
	認定単位数	8	8	8	8	8
短期留学プログラム	認定者数	4	4	4	4	4
	認定単位数	8	8	8	8	8
中・長期留学プログラム	認定者数	6	6	6	6	6
	認定単位数	12	12	12	12	12
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		14	14	14	14	14
年度別認定単位合計		28	28	28	28	28

2. 国内連携大学　【大学名：国際基督教大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
中・長期留学プログラム(COIL)	認定者数	1	2	3	4	5
	認定単位数	2	4	6	8	10
中・長期留学プログラム	認定者数	14	17	20	23	26
	認定単位数	28	34	40	46	52
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		15	19	23	27	31
年度別認定単位合計		30	38	46	54	62

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　　（単位：校）

	2018年度		2019 年度		2020 年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	2	0	7	5	3	0	2	0		

（ii）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：東京外国語大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
サンディエゴ州立大学（短期留学プログラム）（中・長期留学プログラム）	認定者数	7	3	3		
	認定単位数	14	20	14		
カリフォルニア大学ロサンゼルス校（短期留学プログラム（COIL））	認定者数	7	9		1	
	認定単位数	14	18		2	
カリフォルニア大学アーバイン校（短期留学プログラム（COIL））	認定者数		2			
	認定単位数		4			
カリフォルニア大学リバーサイド校（短期留学プログラム（COIL））	認定者数		1			
	認定単位数		2			
ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校（中・長期留学プログラム）	認定者数		1	1		
	認定単位数		9	8		
ニューヨーク州立大学オルバニー校（短期留学プログラム）（中・長期留学プログラム）	認定者数		10			
	認定単位数		77			
年度別認定者数合計		14	26	4	1	0
年度別認定単位合計		28	130	22	2	0

2. 国内連携大学　【大学名：国際基督教大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
カリフォルニア大学（中・長期留学プログラム(COIL)）（中・長期留学プログラム）	認定者数	0	29	37	8	
	認定単位数	0	753.5	975	153.5	
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	29	37	8	0
年度別認定単位合計		0	753.5	975	153.5	0

大学の世界展開力強化事業（平成３０年度採択）
令和４年度フォローアップ調査票

【タイプA】

<table>
<tr><td>大学名
（○が代表大学）</td><td colspan="5">東京藝術大学</td></tr>
<tr><td>主たる交流先</td><td>米国</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="4">日米ゲームクリエイション共同プログラム
- メディア革新時代の新しいアーティスト育成 -</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="4">Japan-US Educational Initiative on Creating Games as a Comprehensive Artistic Practice</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>岡本　美津子</td><td>（所属・職名）</td><td colspan="2">副学長（デジタル推進担当）</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="12">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用
https://games.geidai.ac.jp/

１．取組内容の進捗状況　【（１）と（２）で１ページ以内、（３）と（４）で２ページ以内、（５）は１ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

最新テクノロジーの積極的な導入に定評のある南カリフォルニア大学（USC）と、日本独自のアニメーションによる芸術表現に強みを持つ東京藝術大学で、長期間のゲーム共同制作プログラムを軸に交流を行った。
令和3年5月、米国にて開催された「USC GAMES EXPO 2021」に、共同制作プログラム（令和3年1～5月）参加チームの5作品を出展した。令和3年8～11月には、USCのアンドレアス・クラッキー教授およびピーター・ブリンソン教授によるオンラインワークショップを2シリーズ（「ゲームというシステム」、「コンセントリック型ゲーム開発」）実施。令和4年1月からの共同制作プログラム参加予定者に加え、広く本学映像研究科の学生が受講し、高い教育効果が得られた。令和4年1月より、3チーム（USC生2名、藝大生2名/チーム）が当該年度の長期ゲーム共同制作プログラムを開始。前年度よりチーム数を2つ減らし、1チーム当たりのメンバーを1名増やしたことにより学生一人当たりの負担が軽減され、よりクリエイティブな制作を行うことができた。共同制作中のゲーム作品は、令和4年3月に本学がオンラインと実会場で同時開催したゲームコース展「GEIDAI GAMES 03」にて中間発表を行い、USC教員による講評を受けた。
各プログラムにおいてPDCAサイクルを意識した改善を施し、前年度に増して有意義な交流を実施した。コロナ禍においてオンライン上のみで共同制作を遂行したことから、COIL型教育を最大限活用したプログラムが構築された。事業最終年度にあたる令和4年度は、積み重ねてきた実績を活かしながら、実渡航を伴う交流との相乗効果を図る。

【特に優れた取組】
コロナ禍においても、完全オンラインにて南カリフォルニア大学（USC）との長期ゲーム共同制作プログラム、ならびにUSC教員によるゲーム制作演習ワークショップを実施し、着実な教育効果をあげた。また、COIL型教育を最大限活用した教育プログラムが構築された。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

教育内容、到達目標、評価方法等についての両校教員の綿密な協議により、プログラムの質の向上と運用の安定化が進捗した。ゲーム制作会社のスクウェア・エニックスやゲームフリークから講師を招き、産業の最前線の知見を吸収できる環境を提供した。共同制作作品の中間講評をゲームコース展「GEIDAI GAMES 03」（令和４年３月）にて公開実施し、客観性を担保した。

【特に優れた取組】
ゲーム制作会社から講師を招き、産業の最前線の知見を吸収できる環境を提供した。共同制作ゲーム作品の中間講評をゲームコース展「GEIDAI GAMES 03」にて公開実施し、客観性を担保した。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

事業実施期間を通して配置された教職員３名（専任教員、サポート教員、事務担当スタッフ）が、受入前後の外国人学生およびUSCとの連絡調整を一元的に対応した。日本人学生に対しては、日米バイリンガル教員による英語指導の他、スクウェア・エニックスのプロデューサーを本学特別教授として招き、より実践的な指導体制を構築した。令和４年度は新型コロナウイルス感染症の流行状況も注視しながら、実渡航を伴うプログラムを念頭に、学生・教員の安全確保の対策等について必要な手立てを講じていく。

【特に優れた取組】
外国人学生との連絡調整を本事業担当教職員に一元化し、円滑な受入に対応した。日本人学生には英語指導の他、ゲーム制作会社プロデューサーを本学特別教授として招き、実践的な指導体制を構築した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

令和３年５月に米国で開催された「USC GAMES EXPO 2021」に、共同制作プログラム（令和２年１～５月）参加５チームの作品を出展した。令和４年３月に、本学においてゲームコース展「GEIDAI GAMES 03」をオンラインと実会場にて同時開催し、一般への事業成果の普及を行った。期間中には、USC教員が令和４年１月に共同制作を開始した３チームのゲーム作品の中間講評を行った。また、USC教員による本学修士生作品の実況講評会を開催し、その様子をストリーミング配信することで、共同作品制作に参加していない学生や一般参加者が知見を得る機会を提供した。（配信での参加者数は約800人。）

【特に優れた取組】
令和４年３月にオンラインと実会場にて実施したゲームコース展 「GEIDAI GAMES 03」では、共同制作プログラムの中間発表に加え、産業界を交えた作品制作発表、公開講評会、有名ゲーム実況者やゲーム研究者等を招いたストリーミング配信を行い、内外から多くの参加者があった。（配信参加者数約800人。）

（２）特記すべき成果

本事業の令和２年度長期ゲーム共同制作プログラム修了生、呉ゲツキの終了作品「SmallLife」が、世界的インディーゲームの祭典「IGFアワード」における「2021年度学生部門」にノミネートされた。本事業が契機となり、平成31年４月に本学映像研究科内に設置された「ゲームコース」出身者の国際的活躍が確実なものとなっている。

（３）オンラインを活用した工夫・改善点

USC教授陣によるワークショップをオンラインで実施することにより、共同制作プログラム参加予定者に加え、広く本学映像研究科の学生が受講できる機会とした。
完全オンラインで実施した長期ゲーム共同制作プログラムにおいては、USC で長年実践されてきたBurndown Chart（制作進行表）を用いて、チームメンバーの役割、本プロジェクトに費やせる時間、制作における各工程の重要度等を明確化し、完成目標日までの制作進行予定を視覚的に把握した。本表はCOIL 型教育の特性に合致し、遠隔で日米共同のプロジェクトを 着実に進行させるための重要な指標となった他、参加者の課題を見出す俯瞰的視点と経験値を大幅に向上させた。
本学主催のゲームコース展「GEIDAI GAMES 03」（令和4年3月。オンラインと実会場同時開催）においては、共同制作作品の中間発表に対するUSC教員による講評会をオンラインにて公開することで、広く一般への成果普及を図った。同展期間中には、USC教員による本学修士生作品の実況講評会も開催し、その様子をストリーミング配信することで、共同作品制作に参加していない学生や一般参加者が知見を得る機会を提供した。

２．交流学生数の実績等【（１）（２）（３）それぞれ２ページ以内】

（１）本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計１）		6 人	10 人	10 人	10 人	10 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		6 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計２）		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（A=小計１＋２）		6 人	10 人	10 人	10 人	10 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		6 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②日本人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数（B）	6　人	11人			6人			23人			0人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		11人	0人	0人	0人	6人	0人	0人	23人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】													
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流	0 人	6 人	0 人	0 人	0 人	2 人	0 人	0 人	9 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	0 人	6 人	0 人	0 人	0 人	2 人	0 人	0 人	9 人	0 人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流	0 人	5 人	0 人	0 人	0 人	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	0 人	5 人	0 人	0 人	0 人	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	9 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	9 人	0 人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	5 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	5 人	0 人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（B/A）	100.0%	110.0%			60.0%			230.0%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

COIL型教育を最大限活用し、コロナ禍においても完全オンラインにて南カリフォルニア大学（USC）との長期ゲーム共同制作プログラム、ならびにUSC教員によるゲーム制作演習ワークショップを実施し、日本人学生への着実な教育効果をあげた。

令和３年４～５月には、令和２年度開始長期ゲーム共同制作プログラムにおいて、本学学生10名（うち２名は単位取得）が継続して作品制作に取り組んだ。終了作品は令和３年５月に米国にて開催された「USC GAMES EXPO 2021」に出展され、世界への成果発信が達成された。令和３年８～11月には、USCのアンドレアス・クラッキー教授およびピーター・ブリンソン教授によるオンラインワークショップを２シリーズ（「ゲームというシステム」、「コンセントリック型ゲーム開発」）実施した。本ワークショップ受講者は、「長期制作コース」プログラム参加者を含む９名（うち、１名は研究生）で、日本人学生が本事業ならではの学びの機会を享受した好例となった。令和４年１月からは、６名（うち、１名は研究生）の本学学生が当該年度の長期ゲーム共同制作プログラムを開始した。共同制作中のゲーム作品は、令和４年３月に本学がオンラインと実会場で同時開催したゲームコース展「GEIDAI GAMES 03」にて中間発表とUSC教員による講評会を行った。当該講評会はオンラインで配信され、広く一般への成果公開にも寄与した。

また、日米バイリンガル教員による英語指導の他、「長期制作コース」プログラム参加者には、スクエア・エニックス社のクリエイターによるメンター制度を導入すると共に、共同制作開始前に、ゲーム制作の基礎を習得するワークショップを開催することで、実践的な準備体制も整えた。派遣前サポートの充実は、プログラムを通して得られる知識と経験を最大化した。

事業最終年度となる令和４年度は、新型コロナウイルス感染症の流行状況も注視しながら、実渡航を伴うプログラムを念頭に、学生・教員の安全確保の対策等について必要な手立てを講じていく。

【特に優れた取組】

COIL型教育を最大限活用し、コロナ禍においても完全オンラインにて南カリフォルニア大学（USC）との長期ゲーム共同制作プログラム、ならびにUSC教員によるゲーム制作演習ワークショップを実施し、日本人学生への着実な教育効果をあげた。令和４年度は新型コロナウイルス感染症の流行状況も注視しながら、実渡航を伴うプログラムを念頭に、学生・教員の安全確保の対策等について必要な手立てを講じていく。

（2）本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計３）		3 人	10 人	10 人	10 人	10 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		3 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計4）		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（C=小計3＋4）		3 人	10 人	10 人	10 人	10 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	5 人	5 人	5 人	5 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		3 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②外国人学生数の実績

		2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数（D）		5　人	10人			7人			12人			0人		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
			0人	10人	0人	0人	7人	0人	0人	12人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】														
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	5 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	5 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	6 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	5 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	5 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	6 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		5 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	5 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	5 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	5 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（D/C）		166.7%	100.0%			70.0%			120.0%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

COIL型教育を最大限活用し、コロナ禍においても完全オンラインにて南カリフォルニア大学（USC）学生と本学学生による長期ゲーム共同制作プログラムを実施し、USC学生への着実な教育効果をあげた。

令和３年４～５月には、令和２年度開始長期ゲーム共同制作プログラムにおいて、USC生６名が継続して作品制作に取り組んだ。終了作品は令和３年５月に米国にて開催された「USC GAMES EXPO 2021」に出展され、世界への成果発信が達成された。令和４年１月からは、USC生６名が当該年度の長期ゲーム共同制作プログラムを開始した。共同制作中のゲーム作品は、令和４年３月に本学がオンラインと実会場で同時開催したゲームコース展「GEIDAI GAMES 03」にて中間発表とUSC教員による講評会を行った。当該講評会はオンラインで配信され、広く一般への成果公開にも寄与した。

受入においては、事業実施期間を通して配置された教職員３名（専任教員1名、サポート教員１名、事務担当スタッフ１名）が、外国人学生およびUSCとの連絡調整を一元的に対応した。

事業最終年度となる令和４年度は、新型コロナウイルス感染症の流行状況も注視しながら、実渡航を伴うプログラムを念頭に、学生・教員の安全確保の対策等について必要な手立てを講じていく。

【特に優れた取組】

COIL型教育を最大限活用し、コロナ禍においても完全オンラインにて長期ゲーム共同制作プログラムを中断なく実施し、外国人学生への着実な教育効果をあげた。令和４年度は新型コロナウイルス感染症の流行状況も注視しながら、実渡航を伴うプログラムを念頭に、学生・教員の安全確保の対策等について必要な手立てを講じていく。

（３）　その他（上記（１）・（２）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（4）本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：東京藝術大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	3

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	0	2	2	2	2
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	11	13	15	17	20
全授業科目数（B）	4714	4716	4716	4716	4716
割合（A/B）	0.2%	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	6	10	10	10	10
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	3	10	10	10	10

（ⅱ）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：東京藝術大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	0	2	8	8	
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	11	11	12	12	
全授業科目数（B）	4714	4903	4107	4151	
割合（A/B）	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	6	11	6	18	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	5	10	7	12	

（ⅱ）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iv）事業全体の合計

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	3

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	0	2	2	2	2
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	11	13	15	17	20
全授業科目数（B）	4714	4716	4716	4716	4716
割合（A/B）	0.2%	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	6	10	10	10	10
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	3	10	10	10	10

（iii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iv）事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	0	2	8	8	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	11	11	12	12	0
全授業科目数（B）	4714	4903	4107	4151	0
割合（A/B）	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	6	11	6	18	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	5	10	7	12	0

（5）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ⅰ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：東京藝術大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
南カリフォルニア大学	認定者数	0	10	10	10	10
	認定単位数	0	20	20	20	20
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	10	10	10	10
年度別認定単位合計		0	20	20	20	20

2. 国内連携大学　【大学名：　　　大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

（ⅰ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2018年度		2019 年度		2020 年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0	1	1	1	1	1	1		

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：東京藝術大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
南カリフォルニア大学	認定者数	0	10	5	9	
	認定単位数	0	20	10	32	
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	10	5	9	0
年度別認定単位合計		0	20	10	32	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　　大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成３０年度採択）
令和４年度フォローアップ調査票

【タイプA】

<table>
<tr><td>大学名
（○が代表大学）</td><td colspan="4">鹿児島大学</td></tr>
<tr><td>主たる交流先</td><td colspan="2">米国</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td colspan="2">【和文】</td><td colspan="2">米国から鹿児島、そしてアジアへ―多極化時代の三極連携プログラム</td></tr>
<tr><td colspan="2">【英文】</td><td colspan="2">US-Kagoshima-Asia Triad Program in Multi-Polar World</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td colspan="2">（氏　名）</td><td>尾崎 孝宏</td><td>（所属・職名）グローバルセンター長</td></tr>
<tr><td colspan="2">（交替年月日）</td><td colspan="2">令和4年4月1日</td></tr>
<tr><td rowspan="12">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td>ウィスコンシン大学ラクロス校</td><td>University of Wisconsin-La Crosse</td><td>米国</td></tr>
<tr><td>2</td><td>ハワイ大学マノア校</td><td>University of Hawai‘i at Mānoa</td><td>米国</td></tr>
<tr><td>3</td><td>フィリピン大学ビサヤス校</td><td>University of the Philippines Visayas</td><td>フィリピン</td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.gic.kagoshima-u.ac.jp/triad/

１．取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で１ページ以内、（３）と（４）で２ページ以内、（５）は１ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

実渡航による短期研修は中止、留学プログラムでハワイ大学マノア校へ１名派遣し、ディポネゴロ大学から３名受け入れた。オンライン国際協働学習（COIL）は、大学全体の科目数が24（目標値16）に拡大し、本事業非連携校から６校がCOILパートナーに加わった。また、SDGsの観点から「地域の課題」を学ぶ異分野横断科目 Kagoshima de SDGs I（講義）と II（実習）を開講し、学部・研究科の連携によるCOILにも挑戦した。

【特に優れた取組】

COILでは、鹿児島の課題や魅力を伝えるために、地域をフィールドとする教材の開発に力を入れた。教員が事例研究として作成した動画２本、学生が国内実習の成果をもとに作成した動画４本が完成した。地域の関係者と海外連携大学の双方に共有し、地域も巻き込んだ国際協働学習を展開した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

本事業の海外連携大学との間で交流協定の締結を進めた。全18校のうち未締結のオクラホマ州立大学とタスキーギ大学とは、渡航可能になり次第の打ち合わせを予定している。また、交流プログラムについて質の保証を行うため、学習成果を可視化できるBEVI(Beliefs, Events, and Values Inventory)をベレアカレッジ、韓国中央大学校、ハワイ大学マノア校とのプログラムに活用し、本学学生と連携大学学生の双方に対して実施した。

【特に優れた取組】

これまでは、プログラム終了後に開催する報告会での発表と報告書やJASSO留学前・後アンケートの提出によって教育効果を測ってきたが、BEVIを活用することでより客観的に効果を可視化し、分析することが可能になった。新たにBEVIを取り入れたプログラムでは、より正確で詳細な評価を行うことができた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

2021年8月から、9ヶ月以上の海外派遣を大学による安全確認を条件に文科省が認可したことを受けて、留学可否判断を行う全学制度を迅速に構築し、危機管理マニュアルを見直すなど日本人学生派遣のための制度を整えた。外国人留学生の受入も、入国条件の変更を国別に常時確認し、入国機会を逃さず対応した。併せて、水際対策による、渡航キャンセル料や実施時に要請される待機費用等の必要な経費を支援する制度を整えた。

【特に優れた取組】

コロナ禍に対応して、安全を確認し海外渡航の可否を判断する全学制度を迅速に構築し、外国人留学生の受入支援制度を運用することで、可能な限りの派遣・受入を年度内に再開した。本事業の海外連携大学との間では、1名を派遣し、3名を受け入れることができた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本事業HPにCOIL事例紹介のページを開設し、担当教員がコース概要や学習目標、オンラインでの交流方法や学習成果を掲載した。また、各コース担当教員が本事業の取組と成果（論文２本、学会発表・講演５件、DVD教材出版１本、広報誌・新聞掲載２件）を国内外に公表した。年度末には、各コースの活動について担当教員や学生による報告会を開催し、COILの利点や問題点について議論する機会を持った。さらなる改善を図ることが可能になり、情報共有や成果普及だけでなく、国際化の推進にも繋がった。

【特に優れた取組】

COILの事例報告を行うFDを開催し、担当教員と参加学生の両者が発表することで、COILの手法や内容に関する情報提供に加え、参加学生の声も知ることができた。担当者にとって、自身の取り組みを振り返り、問題点や今後の展開を考える良い機会となった。他の教員にとっては、COILの可能性について知る機会となった。

（２）特記すべき成果

「SDGｓのポリテリクス」と題する国際シンポジウムを開催し、二酸化炭素の削減と牛肉生産の課題について技術革新・経済・倫理の側面から議論を行った。アジアとアメリカの海外連携大学18校が、時間や空間を超えて参加できるよう非同期・同期の二層構造による開催形式を採用した。さらに事前にテーマに関連する映画上映会を企画するなど、若い世代が未来の社会について考え、積極的に発言できるよう工夫をした。一般公開も行い、国内外から300人を超える参加者を得て成功を収めた。環境と経済のバランス、政治や倫理の問題について活発な議論が行われ、世代や国境を超えて共に取り組む必要性を改めて確認することができた。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

本事業は、三極連携を基本にアジアの大学と米国の大学を鹿児島大学がつなぎ、文化的背景や価値観の異なる学生が共通のテーマについて学ぶことを通して、1)教育研究フィールドとしての鹿児島の魅力を知ること、2)グローバルな視点から新しい価値を創出すること、3)国際協働を通して共生の枠組みを構築すること、以上の３点を目標とする。実渡航が不可能な中、オンラインを活用して目標達成に取り組んだ。

取組の工夫として、第1に、地域課題をテーマにオリジナルなCOIL教材を開発した。例えば、「海外インターンシップ」では、地元の大型スーパー（A-Z）を調査し、米国資本のCostcoと比較して、そのマーケティング戦略を分析した。その成果をまとめた動画では、なぜ人口減少や高齢化が進む地域で大型店舗が成功を収めることができたのかを考察している(cf. https://www.gic.kagoshima-u.ac.jp/triad/2021-coil-with-sjsu-marketing-strategies-of-costco-and-a-z/)。COIL科目では、この動画を用いて、米国サンノゼ州立大学の学生と議論を行い、両大学の学生は、事業目標 1) 鹿児島の魅力を発見しただけでなく、「グローバルスタンダート」とは真逆の「利益第二主義」の経営哲学について、すなわち、事業目標 2)グローバルな視点から新しい価値について学ぶことができた。

また、「島嶼へき地医療」コースでは、鹿児島三島村の黒島で作成したビデオ「離島住民のバーチャル家庭訪問」（cf. https://www.kagoshima-u.ac.jp/topics-education-students/2022/05/post-1804.html)を題材に、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるための包括的支援をテーマとするCOILを実施した。ビデオは、在宅ヘルスケアの基本アセスメント能力を向上させることを目的に、教員が現場を訪問して撮影・編集したもので、離島へき地の一人暮らしの高齢者が抱える健康リスクについて学ぶことを目的としている。鹿児島大学と韓国・中央大学と米国・ベレアカレッジの三大学の学生による議論を通して、医療サービスにおける各国に共通する課題と日本や鹿児島に限定的な課題を区別することが可能となり、解決策を見つける際にグローバルな視点が重要であることが明らかになった。「食の安全」コースでは、鹿児島の中小企業の食品製造現場を事例に取り上げて、食の安全基準（HACCAP)について学ぶCOIL科目が行われた。「環境建築デザイン」コースでは、鹿児島の武家屋敷を風土的建築の事例として紹介し、街づくりや建築への活用方法について議論するCOIL科目が実施された。いずれも鹿児島の魅力や課題を再発見するとともに、その課題をグローバルな視点から相対化し、結果として新しい価値を生み出すことに成功した事例である。

一方で、普遍的な課題にグローバル連携で挑戦するCOIL科目も多く見られた。例えば、「ナノバイオ」コースは、材料化学やバイオテクノロジー分野のビデオ講義全24編を、鹿児島大学と米国ノースダコタ州立大学と台湾成功大学の教員が提供し、各大学の学生が自由に受講できるよう設計されている。「食と健康」コースは、中国湖南農業大学をパートナーに「食料と飼料としての大豆」をテーマに食品の機能という科学的分析（普遍性）に、美味しさや健康という文化的影響を考察する視点（地域性）を取り入れた議論がCOIL科目で行われた。「移住と教育」コースでは、米国ウィスコンシン大学ラクロス校と連携し、移民の子弟の教育問題について各国が抱える問題を学びあった。これらのコースでは、普遍的なテーマを議論するために各国の事例を紹介しあい、多様な事例を比較検討するという工夫が見られた。比較によって相対的視点を得ることができ、課題の普遍性と地域性が明らかになった。

第２に、2021年度の改善点として、時間や空間を超えた協働を可能にする国際シンポジウムを構築したことをあげることができる(cf. https://www.gic.kagoshima-u.ac.jp/triad/en/sdgs-symposium-jp-2/)。本事業の海外連携大学のうち、最西に位置するタイの大学と米国東海岸の大学との間では、時間帯が真逆になる（例えば、米国夜9時がタイの朝9時にあたる）。このため、シンポジウムは同期セッションと非同期セッションのハイブリッドで実施したが、2020年度はシンポジウムのメインとなるゲスト講演や質疑応答に参加できたのは、アジアの大学のみであった。米国の大学には、後日に講演ビデオを公開したが、内容について議論することはできなかった。これに対し、2021年度は、最初にゲスト講演をビデオの形で公開し、非同期セッションで全員が視聴し、質問・コメントをテキストで提出する形にした。その上で、同期セッションのパネルディスカッションでは、事前の質問・コメントを組み込んだファシリテーションを行い、関連するプレゼン発表を学生が行ったり、当日参加者による質疑応答にゲスト講演者からコメントを頂くなど、非常に充実した議論を行うことができた。さらにパネルディスカッションの録画を、非同期セッションの全参加者に共有した。このように非同期と同期の二層構造でシンポジウムを開催し、非同期の利点（事前に議論の準備が可能）とライブの利点（対面で議論が可能）の両方を活かしつつ、時間と空間を超えた協働を可能にした。今回テーマであるSDGsのようなグローバル課題は、国や地域や世代や専門性やジェンダー等の立場の異なる人々が多様な視点で議論を行う場を創出することこそが重要であり、事業目標３）協働を通して、共生の枠組を構築することに成功した。

２．交流学生数の実績等【（1）（2）（3）それぞれ２ページ以内】

（１）本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計１）		8 人	118 人	113 人	122 人	106 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	89 人	84 人	91 人	85 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	54 人	49 人	56 人	50 人
	無	0 人	35 人	35 人	35 人	35 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	13 人	13 人	15 人	15 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	6 人	6 人	6 人	6 人
	無	0 人	7 人	7 人	9 人	9 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		8 人	16 人	16 人	16 人	6 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	16 人	16 人	16 人	6 人
	無	8 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計２）		0 人	0 人	0 人	4 人	4 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	4 人	4 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	4 人	4 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（A=小計１＋２）		8 人	118 人	113 人	126 人	110 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	89 人	84 人	91 人	85 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	54 人	49 人	56 人	50 人
	無	0 人	35 人	35 人	35 人	35 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	13 人	13 人	19 人	19 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	6 人	6 人	6 人	6 人
	無	0 人	7 人	7 人	13 人	13 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		8 人	16 人	16 人	16 人	6 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	16 人	16 人	16 人	6 人
	無	8 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②日本人学生数の実績

		2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数（B）		31　人	131人　人			276人　人			438人　人			0人　人		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
			131人	0人	0人	0人	276人	0人	1人	437人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】														
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		23 人	126 人	0 人	0 人	0 人	118 人	0 人	0 人	168 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	71 人	0 人	0 人	0 人	87 人	0 人	0 人	129 人	0 人	人	人	人
	無	23 人	55 人	0 人	0 人	0 人	31 人	0 人	0 人	39 人	0 人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		3 人	2 人	0 人	0 人	0 人	158 人	0 人	1 人	269 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	158 人	0 人	0 人	252 人	0 人	人	人	人
	無	3 人	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	17 人	0 人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		5 人	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	5 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（B/A）		387.5%	111.0%			244.2%			347.6%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

　短期の派遣については、全コースで実渡航が中止、もしくは延期となり、実渡航を代替するために全コースでCOILを活用した交流に取り組んだ。その結果、本事業の海外連携大学11校との間でCOIL 20科目を開講し、本学学生381人が受講した。また、連携校以外にも６校がパートナーに加わり、COIL ４科目を開講し、本学学生18人が受講した。連携校・非連携校を問わず非COILのオンライン国際教育科目（単位・修了証）も実施され、本学133人と国内他大学23人の学生が参加した。その一例として、本事業連携校のハワイ大学マノア校と実施したオンライン研修がある。学習内容は、本学受講生のニーズに合わせて連携校と本学の担当教員が学習内容を協議して組み立てたもので、ハワイの歴史・文化の概要、直面している気候変動の影響（海面上昇）、再生可能エネルギー利用の問題点、海洋プラスチックごみの現状についての連携大学教員による講義と、現地で活動しているNPOによる海洋・海岸清掃、外来水生植物除去の活動報告からなる。ハワイと鹿児島との比較の視点も取り入れた議論を促し、連携大学の学生との毎日１コマの交流時間には、鹿児島紹介とともに上述の問題について意見交換を行い、最終日には、本学学生が英語によるプレゼンテーションを行った。本研修は交換留学（派遣）の下地となるもので、成果として、ハワイ大学マノア校をはじめとする本学協定校へ半年から１年間の派遣留学につながっている。結果として留学に行かない学生も含め、本研修は英語学習への強い動機づけとなるなど、高い学習効果があることがBEVIによって検証されている。オンライン研修は授業料が渡航費より安価なことから、実渡航再開後も新たな教育選択肢となることが証明された。

　また、本学の北米教育研究センターもオンライン研修を実施した。北カリフォルニア商工会議所（JCCNC)と、日米間のビジネス進出サポートや人材育成を行っている団体JABI(Japanese American Business Initiative)と連携し、米国シリコンバレーの起業文化やマインド、価値観について学ぶ研修機会を学生及び職員に提供する。コロナ以前は実渡航によるインターンシップを組み込んだ企画であったが、今年度はオンライン研修と対面による国内実習を組み合わせて企画した。グローバル化が進み、多様性が求められる世界で活躍する人材、ビジネスやプロジェクトを企画し運営することができる人材の育成を目的とし、JABIが提供する起業家育成プログラム（講義、メンタリング、ネットワーキング、プロジェクト発表など）をオンライン受講した。さらに国内実習では、SDGsの理念やビジネスとの関わりについて学ぶためのワークショップを行ったり、地元企業を訪問してマーケティング戦略について調査し、米国資本の企業との比較分析を行った。米国シリコンバレーの考え方が意外にも地元企業の経営哲学に共通することを知るなど、これまで日本の社会や教育で培われた固定観念を取り除き、日本や鹿児島を深く知り、これからあるべき社会について考え、議論をおこなうことができた。海外とのオンライン研修を国内実習と組み合わせることで、意見の異なる他者と協働して何かを成し遂げる際に実社会で最も必要なチームビルディングについても体験することができ、高い学習効果があることが分かった。

　最後に、本事業非連携校も含め、COIL/非COILや単位のある/なしに関わらず、オンライン国際教育の全形態を合わせると、日本人学生583人（本学552人、国内他大学31人）に海外との交流機会を提供することができ、旅費を必要とする実渡航では不可能な規模の学生に異文化比較の視点を身につけ、価値観の異なる他者との交流から学ぶ機会を与えることができた。

【特に優れた取組】

上述のハワイ大学マノア校オンライン研修は、2018年度に開始した「かごしまグローバル教育プログラム」の選択科目に位置付けられている。同プログラムは、地域の課題をグローバルな視点で捉え、グローバルな人的ネットワークを用いて他者と協働し、課題解決に向けて行動できる能力の育成を目的とし、本事業にも活用している。原則として英語で教える科目から成り、学生は基礎編から海外実地体験を含む実践編を受講し、合計16単位の履修でプログラム修了証を得ることができる。従来から日本人学生と外国人学生の対面国際共修を積極的に活用してきたが、コロナ禍でオンラインによる海外学生との交流（本事業連携校であるハワイ大学マノア校の他、豪州の非連携校との同期型オンライン授業）に変更した。同プログラムは交換留学派遣への下地となり、2021年度はハワイ大学マノア校への留学に繋がった。この例に見るように、学内各所でオンライン国際教育が実践され、価値が共有されつつあることは、本事業の成果であると言える。

（2）本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計３）			44 人	72 人	80 人	80 人	84 人
【交流形態別　内訳】							
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			14 人	40 人	48 人	46 人	57 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	14 人	40 人	48 人	46 人	57 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			9 人	12 人	12 人	14 人	17 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	3 人	3 人	3 人	6 人
		無	9 人	9 人	9 人	11 人	11 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			21 人	20 人	20 人	20 人	10 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	20 人	20 人	20 人	10 人
		無	21 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調書分

			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計4）			0 人	0 人	0 人	4 人	4 人
【交流形態別　内訳】							
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	4 人	4 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
		無	0 人	0 人	0 人	4 人	4 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●合計人数

			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（C=小計3＋4）			44 人	72 人	80 人	84 人	88 人
【交流形態別　内訳】							
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			14 人	40 人	48 人	46 人	57 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	14 人	40 人	48 人	46 人	57 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			9 人	12 人	12 人	18 人	21 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	3 人	3 人	3 人	6 人
		無	9 人	9 人	9 人	15 人	15 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			21 人	20 人	20 人	20 人	10 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	20 人	20 人	20 人	10 人
		無	21 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②外国人学生数の実績

		2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数（D）		44　人	82人　人			298人　人			310人　人			0人　人		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
			82人	0人	0人	0人	298人	0人	3人	307人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】														
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	63 人	0 人	0 人	0 人	109 人	0 人	0 人	78 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	63 人	0 人	0 人	0 人	109 人	0 人	0 人	78 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		9 人	13 人	0 人	0 人	0 人	157 人	0 人	3 人	188 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	157 人	0 人	0 人	188 人	0 人	人	人	人
	無	9 人	13 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	3 人	0 人	0 人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		35 人	3 人	0 人	0 人	0 人	4 人	0 人	0 人	41 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	18 人	0 人	0 人	0 人	0 人	4 人	0 人	0 人	41 人	0 人	人	人	人
	無	17 人	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	3 人	0 人	0 人	0 人	28 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	28 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（D/C）		100.0%	113.9%			372.5%			369.0%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

　短期の受入については、全コースで実渡航が中止、もしくは延期となった。中止については、翌年度に再企画することとし、延期分については翌債（繰越）予算を利用することにした。実渡航を代替するため、全コースでCOILを活用した交流に取り組んだ。その結果、本事業の海外連携大学11校との間でCOIL 20科目を開講し、307人の外国人学生と交流した。また、本事業非連携校６校との間でCOIL ４科目を開講し、46人の外国人学生と交流した。連携校・非連携校を問わず非COILオンライン国際教育科目には、外国人学生148人が参加した。本事業非連携校も含め、COIL/非COILや単位のある/なしに関わらず全形態のオンライン国際教育を合わせると、534人の外国人学生に交流機会を提供した。これらの取組により、旅費を必要とする実渡航では実現不可能な規模の外国人学生に、日本や鹿児島について学ぶ機会を与え、異文化について知ることの喜びや価値観の異なる他者と協働する難しさなどを感じてもらうことができた。

　次に、中長期のプログラムでは、グローバルセンターのスタディー・ジャパン・プログラム（SJP)で１名、医学部のプログラムで２名を本事業の海外連携校・ディポネゴロ大学から受け入れた。コロナの影響で入国が延び、2022年3月に対面による指導を開始することができた。医学部プログラムでは、神経科学分野やリハビリテーション医学のほか、基礎研究としての疫学・予防医学など広い分野の研究に参画する。また、他施設での実習や、研究会での発表の機会も設けている。このコースは本学で博士の学位を取得するための動機付けの位置づけがあり、長期的には将来、母国で神経科学の発展に寄与する人材を育成するという狙いがある。また、本学の日本人学生は合同カンファレンスや共同プロジェクトを行うことを通してグローバルな視野や能力を身につけることができる。ディポネゴロ大学医学部との間では長期にわたる交流実績があり、留学生の受入だけでなく、講義の提供も行っている。さらに、本学学部生がディポネゴロ大学で実習を行う機会も設けており、双方向的な取り組みが進むことで共同研究や人材養成の制度構築が可能となっている。

　また、海外協定校（本事業非連携校）との間で短期留学生（特別聴講学生）14名の受入を行った。グローバルセンターでは、SJPにおいて35科目をZOOMで提供した他、初級者向けのビデオ教材を開発し、時差のある学習者にも対応できるようにした。各学部やセンターでも、入国できない短期の外国人留学生（特別聴講生）のオンライン受入を推進した結果、合計23科目（共通教育センター10、法文学部6、教育学部4、人文社会学研究科3）を提供することができた。

　最後に、実渡航で受け入れた外国人留学生を対象に、地域でのインターンシップ機会を提供する取組やホームスティの取組を計画していたが、今年度は実施することができなかった。地域との連携プログラムについては、感染リスク対策もさらに慎重に行う必要があり、今後の検討課題となっている。

【特に優れた取組】

　今年度コロナ禍での交流プログラムの取組は、本学と相手大学との間の連携の強さや学習内容とその提供方法によって、交換留学生及び研究留学生の受入実績が大きく左右されることを顕在化させた。学位取得を目的とする長期留学とは異なり、学生は不穏な状況で無理をして国外に行かずとも大学を卒業することができる。また、短期研修と比べて本国を離れる期間が長いため、本務校での単位取得や卒業に影響を与える懸念もある。こうした条件でもなお半年から１年、協定校で勉強をしたいと考える学生のニーズにマッチするプログラムの提供を行わねばならない。母国を離れずとも学習できるオンライン科目がもつ可能性、逆に、病院施設や企業や家庭など地域と連携した実習科目の重要性、そして半年から１年の留学経験がキャリアにどう結び付くかを明確に示すことの必要性を明らかにすることができた。

（3）　その他（上記（1）・（2）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

〇「本事業の海外連携大学とのCOIL」以外の取り組み（参加者数＝日本人学生＋外国人学生）＊単位/修了証なし

開催年月	プログラム名称	参加者数
2021年10月	共通教育・鹿児島から見た台湾の歴史と地域を学ぶ（台湾国立中央大学）	8　人
2021年10月-2022年1月	共通教育・Intercultural Communications for Global Citizens (西オーストラリア大学)	39　人
2022年3月	共通教育・Capturing Kagoshima Regional Issues from SDGs （ハワイ大学マノア校・甲南大学）	29　人
2021年4月-2021年7月	高度共通教育・Confronting Kagoshima Regional Issues （西オーストラリア大学・シドニー工科大学）	9　人
2022年2月	法文学部・文化人類学実習 I & II（全北大学）	12　人
2021年10月ー2021年11月	法文学部・海外異文化体験実習 イスラームの多様性 （アンカラ大学・テヘラン大学）	35　人
2022年2月-2022年3月	法文学部・海外異文化体験実習 カナダの法と社会（ビクトリア大学）	13　人
2021年4月-2022年1月	法文学部・演習 I＆II（湖南農業大学）	35　人
2022年2月	歯学部・さくらサイエンス交流プログラム（高雄医科大学）	10*　人
2021年8月	農学部・海外研修インドネシア （ボゴール農科大学・筑波大学・東京大学・宇都宮大学）	102　人
2021年5月-2021年8月	水産学部・海外研修/実用英語（フィリピン大学ビサヤス校）	27　人
2021年8月-2021年9月	大学院共通・理工系国際コミュニケーション特別研修 （西オーストラリア大学付属語学学校）	28　人
2021年6月ー2021年7月	理工学研究科・建築設計特論 I （モントレイ大学）	15　人
2021年6月ー2021年7月	理工学研究科・建築設計特別演習 I （モントレイ大学）	8　人
2021年11月	理工学研究科・Joint Symposium of JTBTW （ノースダコタ州立大学・台湾国立大学・大阪大学）	45*　人
2022年3月	農林水産学研究科・牛肉生産ワークショップ （チェンマイ大学・ジョージア大学）	6*　人
2021年9月	農林水産学研究科・Aquatic Bioresorce Science & Technology （ボゴール農科大学）	2　人
2021年9月	農林水産学研究科・Aquatic Biology（サムトランギ大学、ボゴール農科大学）	3　人
2021年9月	農林水産学研究科・Aquaculture（サムトランギ大学）	2　人
2021年9月	農林水産学研究科・Habitat Replenishment Areas（トレンガヌ大学）	1　人

〇実渡航で入国できない外国人留学生への対応（オンラインによる受入）

開催年月	プログラム名称	参加者数
2021年4月-2022年3月	SJP スタディ・ジャパン・プログラム（全35科目）	16　人
2021年4月-2022年3月	学部等による短期留学生（特別聴講学生）へのオンライン教育（全23科目）	9　人

（4）本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：鹿児島大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	6	9	14	16	18
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	6	9	14	16	18
全授業科目数（B）	5882	5882	5882	5882	5882
割合（A/B）	0.1%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	98	108	133	138	154
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	138	152	179	189	197

（ⅱ）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：鹿児島大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	10	21	20	
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	3	12	22	24	
全授業科目数（B）	5882	5077	5378	5717	
割合（A/B）	0.1%	0.2%	0.4%	0.4%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	120	167	245	381	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	137	207	298	307	

（ⅱ）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iv）事業全体の合計

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	0

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	6	9	14	16	18
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	6	9	14	16	18
全授業科目数（B）	5882	5882	5882	5882	5882
割合（A/B）	0.1%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	98	108	133	138	154
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	138	152	179	189	197

（iii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iv）事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	10	21	20	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	3	12	22	24	0
全授業科目数（B）	5882	5077	5378	5717	0
割合（A/B）	0.1%	0.2%	0.4%	0.4%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	120	167	245	381	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	137	207	298	307	0

（5）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	3	9	5	10	6	10	7	11	9	12

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：鹿児島大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ジョージア大学	認定者数	1	0	2	2	2
	認定単位数	8	0	16	16	16
ノースダコタ州立大学	認定者数	0	1	2	1	2
	認定単位数	0	8	16	8	16
サンノゼ州立大学	認定者数	2	2	2	2	2
	認定単位数	16	16	16	16	16
オクラホマ州立大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
タスキーギ大学	認定者数	0	0	0	1	1
	認定単位数	0	0	0	8	8
テキサスA&M大学	認定者数	0	0	0	0	1
	認定単位数	0	0	0	0	8
ベレアカレッジ	認定者数	0	1	2	2	2
	認定単位数	0	8	16	16	16
ディポネゴロ大学	認定者数	0	0	0	0	1
	認定単位数	0	0	0	0	8
中央大学校	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
湖南農業大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
国立成功大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	8	8	8	8

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2018年度		2019 年度		2020 年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	2	5	1	6	0	0	0	0		

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：鹿児島大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
ジョージア大学	認定者数	0	1	0	0	
	認定単位数	0	2	0	0	
ノースダコタ州立大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
サンノゼ州立大学	認定者数	1	0	0	0	
	認定単位数	14	0	0	0	
オクラホマ州立大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
タスキーギ大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
テキサスA&M大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
ベレアカレッジ	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
ディポネゴロ大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
中央大学校	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
湖南農業大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
国立成功大学	認定者数	1	0	0	0	
	認定単位数	8	0	0	0	

国立中興大学	認定者数	1	1	1	1	1
	認定単位数	0	8	8	8	8
メーファールアン大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
チェンマイ大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
ブーラパー大学	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計		4	6	10	10	13
年度別認定単位合計		24	48	80	80	104

2. 国内連携大学　【大学名：　　　大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

国立中興大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
メーファールアン大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
チェンマイ大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
ブーラパー大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
年度別認定者数合計		2	1	0	0	0
年度別認定単位合計		22	2	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　　大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成３０年度採択）
令和４年度フォローアップ調査票

【タイプA】

<table>
<tr><td>大学名
（○が代表大学）</td><td colspan="6">国立大学法人琉球大学</td></tr>
<tr><td>主たる交流先</td><td>米国</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="5">「COIL型教育を活用した太平洋島嶼地域の持続的発展に資するグローバルリーダーの育成」</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="5">Developing Global Leaders in the Pacific Island Region for its Sustainable Development via COIL Technology</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>牛窪　潔</td><td>（所属・職名）</td><td colspan="3">理事、副学長（地域貢献・国際交流・広報担当）</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td rowspan="12">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用
http://www.ged.skr.u-ryukyu.ac.jp/sekaten/

１．取組内容の進捗状況 【（1）と（2）で１ページ以内、（3）と（4）で２ページ以内、（5）は１ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

「太平洋島嶼地域特定課題研修プログラム（短期プログラム）」では、海外連携大学等から講義コンテンツの提供を受け、同時双方向型オンラインプログラムを２回実施して教育内容の充実化を図った。2020年度の短期派遣プログラムの代替として、事故繰越補助金にて海外企業でのバーチャルインターンシップも実施した。今後は、渡航を伴う長期派遣・受入プログラムの再開、オンラインプログラムの自走化が課題である。また、オンライン講義の一部はコンテンツ化してJV-Campusに提供し、持続可能な人材育成のスキームを確立していく必要がある。

【特に優れた取組】

「太平洋島嶼地域特定研修課題プログラム（短期プログラム）」において、太平洋島嶼地域とリンクする戦後沖縄の社会課題と現状について共有し、国際共修の新たな教育コンテンツとして展開した。ユースパネルセッション等を通して沖縄県にルーツを持つ外国人学生のアイデンティティ醸成やユース交流を実現した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

本学独自で策定したグローバル・コンピテンシー、外国語運用能力、異文化適応能力、SDGs運用能力を重要な質保証のためのアセスメント項目として設定し、ルーブリックやGTEC、BEVIを用いた分析を行った。今後は、一部のルーブリックを大学の国際化促進フォーラムにおける国内連携大学と共有し、横の連携を図り、人材育成のスキーム確立に向けて取り組む予定である。

【特に優れた取組】

大学の国際化促進フォーラムにおける国内連携大学とルーブリックを共有し、学修成果を可視化するための評価システムの設計・構築を行っている。さらに、e-ポートフォリオとディプロマサプリメントを開発し、各大学の性質や特性を踏まえた汎用的・多面的な評価システムの開発を目指している。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

クォーター制度で受講できる国際共修科目数を増やし、外国人学生を受け入れる体制を整えた。日本人学生の留学準備の環境整備として、GTEC4技能テストを試験的に導入した。また、バーチャルインターンシップも取り入れるなど、日本人学生派遣プログラムを充実させた。

【特に優れた取組】

日本人学生の留学準備の環境整備として、GTEC4技能テストを試験的に導入し、2技能評価よりもより実践的な英語力の評価を行うことができた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

HPやSNS、COILニューズレターを活用し、COIL型教育、学生交流プログラムやFD等に関する情報を日・英両言語で情報公開を行い、本学教員にCOIL型教育に関する啓蒙及び国内・海外連携大学に向けて本事業の成果を発信している。また2021年度よりJV-Campusに参加し、コンテンツを提供することで大学の国際化を進めている。

【特に優れた取組】

日・英両言語での情報発信を行ったことで海外からSNSやメールでのアクセスが着実に増え、海外高等教育機関からCOIL型教育に関するFDの依頼（フィリピン）やジョイントウェビナー"UN Sustainable Development Goals & 21st Century Skills"での登壇依頼（ハワイ）が寄せられ、本学教員数名が携わった。

（2）特記すべき成果

高度なグローバル人材育成に取り組むために、英語運用能力の質保証では、大学主体で行うGTEC２技能テストに加え、2021年度はGTEC４技能テストを試験的に取り入れるなど意欲的に質保証に取り組んだ。学生交流プログラムでは、引き続きBEVIによる分析を行い、ルーブリック評価に現れない細やかなグループの傾向分析なども重視している。また、オンラインプログラムの充実化を図るため、海外企業でのバーチャルインターンシップを短期派遣プログラムの代替として実施した。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

オンラインを活用した工夫・改善点の１点目は、学生一人一人のニーズに応じたきめ細やかな対応を提供できたことである。オンラインプログラムの学生事後アンケートの感想であった、個々の英語能力の差の問題に対応するため、学生同士でのディスカッション等に教員スタッフ数名をつけて適宜ファシリテートや進捗状況を確認するなどのサポート体制を敷き、個々の英語能力に柔軟に対応するなど、底上げを図った。オンラインプログラムを受講する外国人学生に対しても、英語だけでなく、Google翻訳機能を使って英語を母語としない学生に歩み寄るなど、学生同士での相互扶助を促した。また日本語での講義では、逐次通訳をつけて対応し、外国人学生と講師に配慮した。

２点目は、オンラインを活用した派遣と受入プログラムの同時開催により、交流プログラムの幅や教育効果が広がったことである。先に述べた事後アンケートでも、「レクチャーだけではなく、もっと学生同士のディスカッションやコミュニケーションを重視する教育機会を作ってもらいたい」という声に応え、ユースパネルセッションを開催し、多様なバックグラウンドからの意見を学生たちが聞けるよう、学生のグループワークを重視し、教員はサポート側に回るなど、学生同士の国際共修時間を設けた。また、連携大学ではない海外大学からの受講希望生にも聴講機会を設けた。様々なバックグラウンドを持った学生が参加したことで文化的多様性が確保され、日本人学生の異文化理解の学びにも繋がった。

３点目は、コロナ禍で渡航延期を余儀なくされた2020年度の短期派遣プログラムでの留学を予定していた学生に対して、事故繰越補助金を活用して海外企業でのバーチャルインターンシッププログラムを代替プログラムとして実施したことである。海外業者と連携して、本事業の対象地域である太平洋島嶼地域でSDGs課題に取り組む海外企業でのインターンシップを実施し、自己分析ツールや海外企業での経験を活かしながら今後の就職活動にも活用できるようなICTを活用したインターン経験を提供してグローバル人材の裾野の拡充を図った。本取組では、学生たちが世界市場やグローバル社会で重視されている企業での採用プロセスやコミュニケーションを直に体験することができ、英語運用能力だけでなく、コミュニケーション能力も概ね向上が見られた。通常の授業とのバランスや時差など、バーチャル特有の課題に対しても教員が適宜アドバイスを行いながら実習を進めたことにより、学生のニーズにも対応しながら、従来にはなかった本学が提供するオンライン教育プログラムの可能性を広げることができた。

２．交流学生数の実績等【（1）（2）（3）それぞれ２ページ以内】

（1）本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計１）		5 人	10 人	12 人	15 人	18 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		3 人	5 人	6 人	8 人	9 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	3 人	5 人	6 人	8 人	9 人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		2 人	5 人	6 人	7 人	9 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	2 人	5 人	6 人	7 人	9 人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計２）		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（A=小計１＋２）		5 人	10 人	12 人	15 人	18 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		3 人	5 人	6 人	8 人	9 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	3 人	5 人	6 人	8 人	9 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		2 人	5 人	6 人	7 人	9 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	2 人	5 人	6 人	7 人	9 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②日本人学生数の実績

		2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数（B）		7　人	27人　人			8人　人			15人　人			0人　人		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
			27人	0人	0人	0人	8人	0人	3人	12人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】														
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		6 人	23 人	0 人	0 人	0 人	8 人	0 人	0 人	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	6 人	23 人	人	人	人	8 人	人	人	3 人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		1 人	4 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	3 人	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	1 人	4 人	人	人	人	人	人	3 人	3 人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	6 人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（B/A）		140.0%	270.0%			66.7%			100.0%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

日本人学生の長期派遣が再開し、2021年度は「太平洋島嶼地域探求研修プログラム（長期プログラム）」で本学学部生3名が留学した。内訳はハワイ大学ヒロ校1名（2022年5月帰国）、ハワイ大学カウアイ・コミュニティカレッジ1名（2022年5月帰国）、グアム大学1名（2022年12月帰国予定）の計3校である。「太平洋島嶼地域特定課題研修プログラム（短期プログラム）」は、対面の代替プログラムとして、2021年度後期(10月~2月)に「総合特別講義I」を計15回オンラインにて交流を行った。講義には日本人学生3名が参加し、所定の２単位と修了証書を付与した(「単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流」有 3名)。また、特別聴講生である大学院生1名には参加証書を付与した。2022年3月（3/4~3/18の約2週間）には、短期派遣と受入プログラムを組み合わせた「太平洋島嶼地域課題特定プログラム」をオンラインで実施した。参加人数は、本学の日本人学生が3名(「単位取得を伴う交流期間3ヶ月未満の交流」有 3名)、国内連携大学（南山大学）1名の計4名が参加し、本学学生には「総合特別講義II」の２単位と修了証書、国内連携大学の学生には参加証書を付与した。

また2020年度事故繰越予算を活用し、2021年度は新たな取組として海外でのバーチャルインターンシップをオンラインで実施した。業者は英国に本社を持つベトナム支局で、事前研修や自己分析、マッチング、インターンシップ中のオンライン相談などを主に担った。本学の教員も学生の相談に乗り、企業選別やインターンシップ先の交代などをサポートした。本取組では、COIL型教育を活用して本学学部生6名（「上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流」有 6名）が計120時間（実施期間 2022年1月～3月）のインターンシップ研修を修了した。

2022年度は海外渡航や外国人留学生の受入が順次進んでいることから、短期派遣プログラムはオンラインと実渡航を伴う派遣を組み合わせて実施し、長期は引き続き実渡航を伴う連携大学への学生派遣を予定している。バーチャルインターンシップに関しては、2022年度は実渡航を伴う交流が再開しつつあるため、実施の有無については検討が必要である。

【特に優れた取組】

短期派遣・受入プログラムでは、これまでも本学大学院生や海外の連携大学以外の学生の自由聴講を受入れ国際共修を実施してきたが、2021年度は派遣オンラインプログラムで大学の国際化促進フォーラム国内連携大学の学生にも特別聴講参加を許可したことで、単位取得にとらわれない参加者の多様化がさらに進んだ。また県との連携により、地元の特徴を活かしたプログラムコンテンツを開発したことでプログラム内容の充実化が図られた。さらにオンラインを活かした海外企業とのバーチャルインターンシップの取組は、学生をサポートする側の負担が大きいという課題が残ったものの、本事業での初めての取組として短期研修の可能性を拡大することができ、学生の幅広い関心に応じた研修プログラムを提供し、学修内容の充実化を図ることができた。

（2）本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計３）		5 人	9 人	11 人	11 人	11 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	3 人	4 人	4 人	4 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	3 人	4 人	4 人	4 人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		5 人	6 人	7 人	7 人	7 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	5 人	6 人	7 人	7 人	7 人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計4）		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（C=小計3＋4）		5 人	9 人	11 人	11 人	11 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	3 人	4 人	4 人	4 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	3 人	4 人	4 人	4 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		5 人	6 人	7 人	7 人	7 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	5 人	6 人	7 人	7 人	7 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②外国人学生数の実績

		2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数（D）		6　人	7人　人			7人　人			2人　人			0人　人		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
			6人	1人	0人	0人	7人	0人	0人	2人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】														
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	7 人	0 人	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	1 人	人	人	7 人	人	人	2 人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		6 人	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	6 人	6 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（D/C）		120.0%	77.8%			63.6%			18.2%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

2021年度は水際対策強化に係る措置による厳しい入国条件やビザ発給制限等を受け、実渡航を伴う外国人学生の受入は長期、短期共に交流実績はゼロであった。短期派遣に関しては、オンラインプログラム（「太平洋島嶼地域特定課題研修プログラム」）を2022年3月に実施し、外国人学生2名（ハワイ大学マノア校1名、ハワイ大学ハワイコミュニティカレッジ1名）を特別聴講生として受け入れ、所定の２単位と修了証書を付与した。また当該オンラインプログラムには、本事業における連携大学の学生ではないものの、外国人学生4名（University of California Santa Cruz, USA 2名、Mabalacat City College, Philippines 2名）も自由聴講学生としてプログラムに受入れ、本学学生との国際共修を諮ることができた。

【特に優れた取組】

本事業における連携大学以外の海外教育機関からオンラインプログラムに参加を希望する学生を幅広く受け入れ、修了証書に代わる参加証書を発行した。このことは、日本の大学との国際交流を進めたい海外の大学機関にとって、教育機関としての質保証においてのAccreditationにも貢献しているようである。

（３）　その他（上記（１）・（２）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2021/10～ 2022/2	「太平洋島嶼地域特定課題研修プログラム」（短期派遣） 参加者（本学学部生3、大学院生１、Mabalacat City College５）	9　人
2022/3/4～ 2022/3/18	「太平洋島嶼地域特定課題研修プログラム」（短期派遣・受入） 参加者（本学学部生３、南山大学１、UH, Manoa１、UH, Hawaii Community College１、University of California Santa Cruz２、Mabalacat City College２）	10　人
		人
		人

（4）本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

（ⅰ）代表申請大学　【大学名： 琉球大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	11	44	44	45	46
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	16	54	54	55	56
全授業科目数（B）	11000	11000	11000	11000	11000
割合（A/B）	0.1%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	160	640	640	655	655
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	50	190	190	195	200

（ⅱ）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

【2021年度末における目標の達成状況】

（ⅰ）代表申請大学　【大学名： 琉球大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	12	46	57	56	
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	17	54	73	79	
全授業科目数（B）	4364	6269	6373	6327	
割合（A/B）	0.4%	0.9%	1.1%	1.2%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	152	702	800	1078	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	114	257	474	514	

（ⅱ）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iv）事業全体の合計

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	0

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	11	44	44	45	46
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	16	54	54	55	56
全授業科目数（B）	11000	11000	11000	11000	11000
割合（A/B）	0.1%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	160	640	640	655	655
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	50	190	190	195	200

（iii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iv）事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	12	46	57	56	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	17	54	73	79	0
全授業科目数（B）	4364	6269	6373	6327	0
割合（A/B）	0.4%	0.9%	1.1%	1.2%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	152	702	800	1078	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	114	257	474	514	0

（5）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 （単位：校）

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	8	8	13	13	13	13	13	13	13	13

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 （単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 琉球大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ハワイ大学９校（マノア校、ヒロ校、マウイカレッジ、カウアイコミュニティカレッジ、ハワイコミュ	認定者数	5	10	12	15	18
	認定単位数	25	55	66	80	99
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		5	10	12	15	18
年度別認定単位合計		25	55	66	80	99

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 （単位：校）

	2018年度		2019 年度		2020 年度		2021年度		2022年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	1	5	3	5	0	3	3	2		

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 （単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学 【大学名： 琉球大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
ハワイ大学ヒロ校	認定者数		1		1	
	認定単位数		27			
ハワイ大学マウイカレッジ	認定者数		2			
	認定単位数		40			
ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ	認定者数	1			1	
	認定単位数	27			2	
グアム大学	認定者数		1		1	
	認定単位数		21			
年度別認定者数合計		1	4	0	3	0
年度別認定単位合計		27	88	0	2	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成３０年度採択）
令和４年度フォローアップ調査票

【タイプA】

<table>
<tr><td>大学名
（○が代表大学）</td><td colspan="4">大阪公立大学</td></tr>
<tr><td>主たる交流先</td><td>米国</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="3">日米をつなぐ共創的ソーシャルイノベーター育成プログラム</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="3">Program to Develop Collaborative Japan-US Social Innovators</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>橋本　文彦</td><td>（所属・職名）</td><td>教育担当副学長</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="3">令和4年4月1日</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="12">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用
http://www.coil.osaka-cu.ac.jp/

１．取組内容の進捗状況 【（１）と（２）で１ページ以内、（３）と（４）で２ページ以内、（５）は１ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

学内のFD/SD研究会の利用や広報活動促進の結果、2021年度は9科目13クラスでCOIL型授業を実施することができた。これらの授業には、4か国（米国、フィリピン、ザンビア、フィンランド）12大学から計208名の学生が参加し、本学の学生計196名とCOILを通じた協働学習を行った。また、短期集中プログラムとして実施してきたソーシャルイノベーション研修「Socially Innovative Global Classroom（以下SIGLOC）」は、オンラインにて3回実施した（第8回：2021年6月、第9回：2021年9月、第10回：2022年3月）。合計14の国と地域から129名（本学学生計11名を含む）の参加があった。なお、参加者のうち大阪市立大学11名、アンドリュース大学5名、デラサール大学4名の学生は各大学の単位認定科目（授業）として参加した。2020年に交換留学協定を締結したアンドリュース大学との4ヶ月の交換留学が2021年度後期に実施される予定であったが、コロナ禍の影響により渡航が不可能となった。2021年度は、翌年度に向けた留学生の募集、選考、派遣手続き等の準備を進めた。コロナ禍の影響が少なくなれば、2022年8月に学生の派遣と受入が開始される予定である。事業の展開に応じて、学内でのCOIL型授業の増加や海外連携校の拡充が続いており、来年度も事業の拡大を通じてより多くの学生に協働学習の機会が提供される見込みである。

【特に優れた取組】

オンラインの短期集中プログラムであるソーシャルイノベーション研修（SIGLOC）は、回を重ねるごとに参加者が増加し、2021年3月に実施した第10回研修には、13か国・地域の44大学から86名が修了するまでになった。多国籍の学生が持つ多様性の下で、様々な観点から社会課題や解決策を考えあう場が提供されている。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

1）ルーブリックの開発：ソーシャルイノベーションに必要な技能を7項目に整理し、それらを評価するためのルーブリックをSIGLOCで使用した。今後はソーシャルイノベーションに関する授業でも使用する予定である。

2）BEVIの活用：ソーシャルイノベーションの学修により学生にどのような変化が見られたかを客観的に観察するツールとして、SIGLOCにてBEVIを使用した。

【特に優れた取組】

ソーシャルイノベーションに必要な技能を測るためのルーブリックを、SIGLOCにて学生の自己評価に使用した。その結果、特に「リーダーシップ」と「課題の解決策を実践する技能」が向上していることが見られた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

【受入】2021年度に開始予定であった留学生受入コース（英語のみで受講可能な7科目16単位の4ヶ月コース）は、コロナ禍のために渡航中止となったが、2022年度の実施に向けて提携校のアンドリュース大学と準備を進めた。

【派遣】2021年度は渡航中止となったが、2022年度の派遣に向けて、留学生の募集選考を進めた。

【特に優れた取組】

提携校との交換留学プログラムとして、英語のみでソーシャルイノベーションに関する授業を受講できる留学生受入れコース（7科目16単位：4ヶ月）を設置し、留学生の募集・選考の手続きを開始した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

SIGLOC参加大学の教職員との連携の強化を図り、ソーシャルイノベーション教育を共同で促進する大学の開拓を行った。JV-CampusにSIGLOCや本学を紹介するコンテンツを掲載した。APPSA x PAPSASでは教員と学生がSIGOCに関する報告発表をしたほか、SCI-Japanでのコンテンツ配信、学内FD/SD研究会でCOIL型授業の実践報告を行った。

【特に優れた取組】

WebサイトやSNS、映像を活用した情報発信、成果の公開およびPRを積極的に進めた結果、2021年度のCOIL型授業増加や提携校以外の海外大学からのSIGLOC参加者増加に繋がった。

（２）特記すべき成果

①2021年度にオンラインで3回実施したSIGLOCでは、各回とも「SDGｓ：地球規模の課題解決に向けた地域コミュニティーにおけるソーシャルイノベーション」をテーマとして、多国籍の学生が協働で社会課題の分析と解決策の提案に取り組んだ。その結果、参加者による事後評価でネット・プロモーター・スコア(NPS)が第8回 76.9、第9回 63.3、第10回 81.1となり、各回とも高い満足度が示された。

②2021年度は、ソーシャルイノベーション(SI)コースの修了認定を受けた学生(3名)を初めて輩出した。また、新大学への移行に伴い、グローバルコミュニケーション(GC)コースと連携したGC・SI副専攻としての運用が始まった。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

1）COILを用いた授業における工夫

①同期と非同期の活動の組み合わせ：COILを用いた各授業では、各担当教員が数カ月にわたって相手校との授業調整をし、授業期間中に予め同期接続で成果発表や意見交換をする時間を設定、その合間に非同期でも意見交換をする場を設け、授業期間全体を通じて学生が協働学習を進めた。学生がオンタイムに相手校の学生と会話をする同期接続の時間と、十分な時間をとって調査や記述を行うことのできる非同期の時間を学習内容に応じて組み合わせ、学習効果の向上を図った。

②授業内容に即したツールやアプリケーションの利用：それぞれのCOIL型授業では、協働学習が効率よく進むように、共同ワークスペースとしてGoogleドライブの他、短時間の発表ビデオ作成にはFlipgrid、日常の連絡にはSlack、文書作成と共有にTeamsなど、各教員が学習内容や活動に応じたツールを活用した。

2）短期集中プログラム（SIGLOC）における工夫

①時差を考慮した工夫：学生が世界中のどこからでも参加できるプログラムにするために、時差を予め考慮してプログラムを作成した。例えば、プログラム内で学生が行う各タスクの指示や教材提示は基本的にオンデマンドにし、タスクが終わった学生からペアを作って協働学習の場を設定した。また、同期セッションでは、参加者を時差によって3つのグループに分けて、時間を変えて3回実施した。

②学習モニタリング・評価システムの開発：100名近くの学生が2週間24時間に渡ってオンラインで協働学習を進めるにあたり、一人ひとりの学習の進捗状況や成果を把握することが困難になる。そこで、2021年度からSIGLOCにおいて参加学生の学習進捗や成果（提出物）のレベルをある程度まで自動的にモニタリングできるシステム（ソフトウェア）の開発を開始した。これにより、学生数が増えても客観的な指標で評価を行うことが可能となるため、将来の単位認定に活用できる可能性がある。

２．交流学生数の実績等【（1）（2）（3）それぞれ２ページ以内】

（1）本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計１）			5 人	5 人	23 人	25 人	26 人
【交流形態別　内訳】							
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	2 人	2 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	2 人	2 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	1 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			5 人	5 人	23 人	23 人	23 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	5 人	5 人	23 人	23 人	23 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調書分

			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計２）			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
【交流形態別　内訳】							
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人

●合計人数

			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（A=小計１＋２）			5 人	5 人	23 人	25 人	26 人
【交流形態別　内訳】							
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	2 人	2 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	2 人	2 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	1 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			5 人	5 人	23 人	23 人	23 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	5 人	5 人	23 人	23 人	23 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②日本人学生数の実績

		2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数（B）		17　人	25人　人			6人　人			13人　人			0人　人		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
			0人	8人	17人	0人	6人	0人	0人	13人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】														
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	11 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	11 人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		17 人	0 人	8 人	17 人	0 人	6 人	0 人	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	8 人	人	人	6 人	人	人	2 人	人	人	人	人
	無	17 人	人	人	17 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（B/A）		340.0%	500.0%			26.1%			52.0%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

2021年度の目標値であった25名（単位取得を伴う3ヶ月未満の交流2名、それ以外の3ヶ月未満の交流23名）に対して、実績は13名（単位取得を伴う3か月未満の交流11名、それ以外の3ヶ月未満の交流2名）であった。
目標値に達しなかった原因として、第一にコロナ禍の影響で実渡航を伴う交流が実施できなかったことがあげられる。提携校であるアンドリュース大学との交換留学を2021年度に開始する計画で準備したが、渡航が不可能となってしまい、希望していた学生の履修を翌年にするかオンラインで参加可能なプログラムに変更することを余儀なくされた。同大学との交換留学は、コロナ禍の影響が収まれば2022年8月に開始する計画で、すでに学生の募集・選考や渡航手続きをしている。第二に、学内でのCOILを用いた授業は増えたものの、オンラインでの海外学生との協働学習の意義や魅力が学生にまだ十分に認識されていないことが考えられる。オンラインで協働学習の機会を提供するSIGLOCやCOILの授業に参加した学生は昨年度より増えたが、海外の学生との交流や学習に関心を持つ一定数の学生に留まっている。オンラインの協働学習の魅力を学生に向けた発信で強調すると共に、2022年度に実施する単位取得を伴う対面型のSIGLOCへの勧誘を強化して、日本人学生の参加数を増やす予定である。

【特に優れた取組】
コロナ禍の影響で渡航を伴う交流が不可能であったが、オンラインの利点を生かして世界中から学生が参加できる形で、短期集中プログラムのソーシャルイノベーション研修（SIGLOC）を3回実施した。参加学生は、米国とフィリピンの連携大学からの学生だけでなく、毎回約10か国の学生との協働学習で、社会課題の分析や解決策の提案を行うことができた。

（2）本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計３）			20 人	20 人	20 人	22 人	23 人
【交流形態別　内訳】							
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	2 人	2 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	2 人	2 人
		無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	1 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	1 人
		無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			20 人	20 人	20 人	20 人	20 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	20 人	20 人	20 人	20 人	20 人
		無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計4）			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
【交流形態別　内訳】							
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人

●合計人数

			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（C=小計3＋4）			20 人	20 人	20 人	22 人	23 人
【交流形態別　内訳】							
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	2 人	2 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	2 人	2 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	1 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			20 人	20 人	20 人	20 人	20 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	20 人	20 人	20 人	20 人	20 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②外国人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数（D）	25　人	22人　人			48人　人			116人　人			0人　人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		19人	3人	0人	0人	48人	0人	0人	116人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】													
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	9 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	人	人	人	人	人	人	人	人	9 人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流	25 人	19 人	3 人	0 人	0 人	48 人	0 人	0 人	107 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	人	人	3 人	人	人	48 人	人	人	107 人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	25 人	19 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（D/C）	125.0%	110.0%			240.0%			527.3%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

2021年度の目標値であった22名（単位取得を伴う3ヶ月未満の交流2名、それ以外の3ヶ月未満の交流20名）に対して、実績は116名（単位取得を伴う3ヶ月未満の交流9名、それ以外の3か月未満の交流107名）であった。
上述のように、2021年度に予定していたアンドリュース大学との渡航を伴う交換留学が不可能となったことを踏まえて、短期研修プログラムのSIGLOCをオンラインで継続し、提携校のアンドリュース大学やデラサール大学の学生だけでなく、世界中の学生が参加可能なオンラインのプログラムとして運営した。2021年度に実施した3回のSIGLOCには、海外13か国・地域から計116名の学生（本学学生を除く）が参加して、多様な考えや経験を持った学生同士の協働学習が展開された。なお、参加学生のうち、提携校のアンドリュース大学の5名とデラサール大学の4名は所属大学からの単位付与が認められた。

【特に優れた取組】
これまでにソーシャルイノベーション研修（SIGLOC）に参加した16か国・地域の学生計271名は、プログラムで使用した連絡用のプラットフォームで、修了生（Alumni）として現在も交流できるようになっている。プログラムの実施ごとに修了生の数が増加するため、世界中の学生がプログラム修了後もソーシャルイノベーションに関して情報交換や相談のできるネットワークを作っている。

（３）　その他（上記（１）・（２）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数	
2021年8月	OCU International Exploration Program	24	人
2022年3月	ウィスコンシン大学短期留学プログラム	7	人
			人
			人

（4）本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　大阪公立大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	3

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	2	3	3	3
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	4	5	6	7	8
全授業科目数（B）	3379	3379	3379	3379	3379
割合（A/B）	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	20	20	40	40	40
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	20	20	40	40	40

（iv）事業全体の合計

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	3

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	2	3	3	3
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	4	5	6	7	8
全授業科目数（B）	3379	3379	3379	3379	3379
割合（A/B）	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	20	20	40	40	40
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	20	20	40	40	40

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　大阪公立大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	3	4	9	
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	3	3	4	9	
全授業科目数（B）	3379	3379	3379	3379	
割合（A/B）	0.1%	0.1%	0.1%	0.3%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	45	60	107	196	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	53	71	83	208	

（iv）事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	3	3	4	9	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	3	3	4	9	0
全授業科目数（B）	3379	3379	3379	3379	0
割合（A/B）	0.1%	0.1%	0.1%	0.3%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	45	60	107	196	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	53	71	83	208	0

（5）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：　大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
アンドリュース大学	認定者数				1	2
	認定単位数				8	28
イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	認定者数				1	1
	認定単位数				8	8
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	2	3
年度別認定単位合計		0	0	0	16	36

2. 国内連携大学　【大学名：　大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2018年度		2019 年度		2020 年度		2021年度		2022年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0		

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：大阪公立大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
アンドリュース大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成３０年度採択）
令和４年度フォローアップ調査票

【タイプA】

大学名 （○が代表大学）	○上智大学、お茶の水女子大学、静岡県立大学			
主たる交流先	米国			
事業名	【和文】	人間の安全保障と多文化共生に係る課題発見型国際協働オンライン学習プログラムの開発		
	【英文】	Development of Exploratory COIL (Collaborative Online International Learning)Programs toward Human Security and Multicultural Coexistence		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	伊呂原 隆	（所属・職名）	上智大学　学務担当副学長
	（交替年月日）	令和3年4月6日		

海外相手大学追加調書分 相手大学名 ※追加調書を提出した大学のみ記入		大学名		国名
		（日本語表記）	（英語表記）	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.sophia.ac.jp/jpn/global/global/sekaitenkai/coil/coil.html https://www.cf.ocha.ac.jp/coil/index.html https://www.us-coil.jp/

１．取組内容の進捗状況 【（1）と（2）で1ページ以内、（3）と（4）で2ページ以内、（5）は1ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

事業4年目は、継続するコロナ禍で渡航を伴う交流が難しく交流学生数は目標に届かなかったが、オンラインによる留学プログラム実施や学生交流活発化へと実を結んだ。また、授業科目へのCOIL導入については、教職員がオンライン対応の経験を積んだことが追い風となり、米国連携大学に加え、その他地域との連携科目も増加するなど、大学全体としてCOILの導入が促進した。3大学合同のワーキンググループやCOIL促進にかかる広報資料も含め、事業終了後の自走化に繋がる様々な取り組みを成果として残せた1年となった。最終年度は渡航再開も見込まれ、交流人数においても目標達成に向けて取り組みたい。

【特に優れた取組】

上智大学と静岡県立大学では、「国際看護」の授業で、上智大学、ポートランド大学、モンゴル国立ドルノゴビ医科大学、タイ国立コンケン大学の４か国５大学を接続し、各国の看護学生による英語でのプレゼンテーション後、各国間での共通点や違いについて意見交換を行い、学生主体で互いに理解を深める交流が実現した。

お茶の水女子大学では、4日間にわたり「平和教育」をテーマにヴァッサー大学と「国際学生フォーラム」をオンラインで開催し、事前授業は５か月間実施、うち６回を合同で実施。講演会は日米の講師を招き4回実施したほか、日米学生間で討論・発表準備を行った。結果、複言語・複文化環境で発表・交流することで、視野やアイデンティティが広がったほか、学生主導で実施することで市民意識やリーダーシップが培われた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

国内3大学合同のワーキンググループを設置し、これまでに実施したCOIL導入科目の事例を振り返り、その成果としてCOIL導入にあたるガイドラインとなる動画・冊子を作成した。その過程では、シアトル大学よりゲストを招き、米国でのCOIL事例や留意点などを学ぶとともに意見交換を行うことで、日米間のCOIL実施について比較できる貴重な機会となった。また、3大学で互いの知見を共有し、より質の高いCOIL型教育の実施とより強固な連携へと繋げるため、事業責任者が一同に会するプログラム運営協議会を開催。さらに、定期的にFDを実施し、多様化する授業形態におけるCOILの実践経験や課題を共有。ボストンカレッジ教員による高等教育の質保証に関する講演会も開催した。

【特に優れた取組】

3大学の教員によって設置したワーキンググループでは、4回の協議の中で様々な立場や視点から意見交換を重ね、その成果物としてCOIL導入ガイドを作成した。また、COILはじめオンライン教育を含めた高等教育の質保証をテーマに、ボストンカレッジより専門家のGerardo L. Blanco氏を招いた講演会を開催。国内3大学から37名の教職員が参加した。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

上智大学は、通常の窓口・メールでの相談対応のほか、受入学生にはオンラインによるオリエンテーションや交流イベントの開催、さらには、日本入国に関する最新情報の随時発信を行った。また、派遣希望・予定学生にはzoomによるカウンセリング、コロナ禍における危機管理に関するセミナー開催など、細やかな対応に努めた。お茶の水女子大学では、留学交流を促進するため、協定校の間でオンライン授業（一部）を提供、静岡県立大学では、富士山を望む丘にある施設をリモデルした国際学生寮「富学寮」を2022年4月に開寮。寮内の交流スペースでは、各国料理や言語、勉強を教え合ったりと、学生同士は勿論、地域とも交流を楽しめる場を提供する。

【特に優れた取組】

お茶の水女子大学は、サマープログラムを約2ヵ月間オンラインで開催し、ヴァッサー大学はじめ、世界16カ国から67名の学生が英語で受講した。また、受入・派遣双方にとって留学・交流意欲を継続させるための施策として、上智大学より派遣予定の学生と連携大学で留学を希望する学生との交流イベントをオンラインで開催した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

国内3大学合同のワーキンググループによる成果物として、上智大学主導のもと、COILを大学全体で促進するためのツールとなる動画と冊子を作成した。これまでの広報紙にあった概要や事例紹介にとどまらず、実際にCOILを導入するために必要なステップや留意点を詳細に記載し、新規にCOILを検討する教員向けに実用化された内容に仕上げた。また、お茶の水女子大学が日越大学と実施したCOILの授業の様子は先方の大学ウェブサイトに記事が掲載され、静岡県立大学では、国際交流センターが運営するCOIL専用サイト「US-COIL」の充実化と、海外への積極的な情報発信に向けた同サイトの英語化を進めている。

【特に優れた取組】

COIL導入ガイド動画及び冊子はいずれも日英で作成し、これまでの広報資料とは異なる実用性に富んだ内容でCOIL促進において役割を果たすべく各大学で公開している。最終年度さらには事業終了後の自走化に向けてCOIL科目の拡充や、新たにCOILに取り組む米国側教員の開拓に役立てたい。また、上智大学や静岡県立大学では、外部媒体の広報紙や新聞の取材を受け、国内におけるCOILの認知度向上と成果普及に寄与した。

（２）特記すべき成果
ゴンザガ大学と3大学合同のプログラムでは、秋学期中の4大学COIL型講義を経て、春期休暇中の集中プログラムに計30名の学生がオンラインで参加し、ジェンダー論や包摂的リーダーシップを多角的な視点から学んだ。COIL型教育手法を活用した授業については、授業科目のオンライン化によりCOIL導入が急遽に進み、同期／非同期で多様化するオンラインプラットフォームを活用する等、目標数を上回る科目実施を達成。上智大学では、COIL型手法の内容も多様化し、導入する学科（学問分野）も広がり見せている。また、3大学合同で作成したCOIL導入ガイドに基づき、2022年度にはその成果発信の場として合同ワークショップを開催。具体的な導入方法や現場の課題も含め、幅広い教員への情報共有の場となった。

（３）オンラインを活用した工夫・改善点
短期の学生派遣プログラムはオンライン実施となったが、募集にあたり2020年度のオンライン参加学生の前向きな声を活用し、上智大学からは語学講座（カリフォルニア大学デービス校）へ18名、理工学部短期研修（カリフォルニア大学デービス校）へ1名を、お茶の水女子大学からは国際学生フォーラム（ヴァッサー大学）へ9名を、静岡県立大学は短期研修（カリフォルニア大学デービス校）へ2名を、そして（２）でも明記したゴンザガ大学の集中講座へ30名を派遣し、いずれも学生の満足度も高く成功裏に実施することができた。また、お茶の水女子大学では、UCデービスと共同で企画したCOIL型のオンライン短期研修を、STEMや異文化コミュニケーションをテーマに開催し、6名の学生が参加した。

２．交流学生数の実績等【（1）（2）（3）それぞれ２ページ以内】

（1）本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計１）		21 人	75 人	81 人	89 人	94 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		20 人	50 人	55 人	55 人	60 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	20 人	50 人	55 人	55 人	60 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		1 人	17 人	18 人	26 人	26 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	1 人	17 人	18 人	26 人	26 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	8 人	8 人	8 人	8 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	8 人	8 人	8 人	8 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計２）		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（A=小計１＋２）		21 人	75 人	81 人	89 人	94 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		20 人	50 人	55 人	55 人	60 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	20 人	50 人	55 人	55 人	60 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		1 人	17 人	18 人	26 人	26 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	1 人	17 人	18 人	26 人	26 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	8 人	8 人	8 人	8 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	8 人	8 人	8 人	8 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②日本人学生数の実績

		2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数（B）		26 人	104人 人			40人 人			80人 人			0人 人		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
			104人	0人	0人	0人	40人	0人	14人	66人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】														
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		25 人	82 人	0 人	0 人	0 人	17 人	0 人	0 人	39 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	25 人	72 人	0 人	0 人	0 人	17 人	0 人	0 人	39 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	10 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	20 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	14 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	5 人	0 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	20 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	9 人	0 人	0 人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		1 人	2 人	0 人	0 人	0 人	23 人	0 人	0 人	27 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	1 人	2 人	0 人	0 人	0 人	23 人	0 人	0 人	27 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（B/A）		123.8%	138.7%			49.4%			89.9%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

新型コロナウイルスの影響により、2020年度は渡航を伴う学生派遣を全面的に取り止めとしたが、2021年度は米国連携大学での対面授業再開も受け、上智大学では、3か月以上の長期に渡る交換留学では、留学先の感染状況・対策状況と本人の準備状況等を確認し一定の条件を満たす場合に限定して、特例措置という形で渡航を伴う形で12名を派遣した。お茶の水女子大学においても渡航方針を改定し、ヴァッサー大学に2名を交換留学で長期派遣した。
一方で、3か月未満の短期の学生派遣プログラムについては、2020年度から引き続きオンラインでの実施とし、上智大学からは語学講座（カリフォルニア大学デービス校）へ18名、理工学部短期研修（カリフォルニア大学デービス校）へ1名を、お茶の水女子大学からは国際学生フォーラム（ヴァッサー大学）へ9名、短期研修（カリフォルニア大学デービス校）へ6名を、静岡県立大学は短期研修（カリフォルニア大学デービス校）へ2名を、そして3大学合同でInclusive Leadershipをテーマとした集中講座（ゴンザガ大学）へ30名を派遣した。
2022年度は、感染症危険レベルの一部国地域の引き下げを受け、各大学で渡航方針を改定し、より渡航留学の希望が増える見込みである。

【特に優れた取組】
2020年度より開始した3大学合同でゴンザガ大学と連携したプログラムでは、まず2021年度秋学期中に国内大学でのCOIL型合同講義を3回、ゴンザガ大学の講義に3大学学生が参加する形式を3回実施し、合同プレゼンテーションなどを通してジェンダーに関する各論と、国内・アジア・日米の比較を行った。それらの事前講義を踏まえて、春期休暇中にゴンザガ大学が提供する集中講座では、包摂的リーダーシップに関するより実践的な講義を受講した（プログラム期間：2/28〜3/4）。国内COILでは各大学の教員がそれぞれの専門分野から講義を行うなど、国内・日米による連携体制のシナジー効果を生かした取り組みとして促進している。

（2）本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計３）		3 人	22 人	23 人	36 人	36 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		3 人	5 人	5 人	7 人	7 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	3 人	3 人	3 人	3 人	3 人
	無	0 人	2 人	2 人	4 人	4 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	17 人	18 人	29 人	29 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	8 人	8 人	15 人	15 人
	無	0 人	9 人	10 人	14 人	14 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計4）		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（C=小計3＋4）		3 人	22 人	23 人	36 人	36 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		3 人	5 人	5 人	7 人	7 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	3 人	3 人	3 人	3 人	3 人
	無	0 人	2 人	2 人	4 人	4 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	17 人	18 人	29 人	29 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	8 人	8 人	15 人	15 人
	無	0 人	9 人	10 人	14 人	14 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②外国人学生数の実績

		2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数（D）		5　人	47人　人			0人　人			7人　人			0人　人		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
			47人	0人	0人	0人	0人	0人	2人	5人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】														
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		1 人	18 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	4 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	1 人	4 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	3 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	14 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		4 人	29 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	5 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人	人
	無	4 人	24 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人	1 人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人	人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人	人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（D/C）		166.7%	213.6%			0.0%			19.4%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

上智大学では、2021年度春学期は2名、秋学期は1名を受入れた。しかしながら、日本政府による水際対策により留学生は日本へ入国できない状況が続いているため、交換留学生の受入はオンラインで行っているが、時差の問題等、課題も多く、目標規模での学生受入には至っていない。お茶の水女子大学では、単位付与のあるサマープログラムを約2か月間オンラインで開催し、ヴァッサー大学からの3名をはじめ、世界16カ国から67名の学生が3コースのプログラムを英語で受講した。静岡県立大学の静岡スタディツアーなどの受入企画も、新型コロナの影響で実現できなかった。
2022年度は、入国制限の緩和とともに受入留学生数がコロナ前の人数規模に回復しているため、渡航前フォローへのCOIL型教育導入や、静岡スタディツアーの再開を目指したい。

【特に優れた取組】
継続する入国制限を影響は多大ですが、留学を希望していた日米学生のオンラインの学生交流イベントを開催するなど、オンラインでの交流によって、協定大学との学生交流の継続と、渡航再開後の日本への留学希望者の維持に努めている。

（３）　その他（上記（１）・（２）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2021年8月	Summer School in Global Environmental Studies	22　人
		人
		人
		人

（4）本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

（ⅰ）代表申請大学　【大学名：上智大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	2

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	5	10	20	30	40
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	5	10	20	30	40
全授業科目数（B）	6810	6810	6810	6810	6810
割合（A/B）	0.1%	0.1%	0.3%	0.4%	0.6%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	200	400	800	1200	1600
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	20	40	80	120	160

（ⅱ）国内連携大学　【大学名：お茶の水女子大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	0

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	1	2	2	2	2
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	1	2	2	2	2
全授業科目数（B）	1455	1455	1455	1455	1455
割合（A/B）	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	20	40	40	40	40
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	10	20	20	20	20

【2021年度末における目標の達成状況】

（ⅰ）代表申請大学　【大学名：上智大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	8	14	17	24	
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	9	17	27	47	
全授業科目数（B）	7343	7524	7618	7755	
割合（A/B）	0.1%	0.2%	0.4%	0.6%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	293	149	309	462	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	25	24	10	59	

（ⅱ）国内連携大学　【大学名：お茶の水女子大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	1	3	4	3	
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	4	4	10	26	
全授業科目数（B）	1875	2293	2155	2074	
割合（A/B）	0.2%	0.2%	0.5%	1.3%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	25	44	37	34	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	0	3	0	0	

（iii）国内連携大学　【大学名：静岡県立大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	0

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	0	3	4	5	6
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	0	3	4	5	6
全授業科目数（B）	1427	1427	1427	1427	1427
割合（A/B）	0.0%	0.2%	0.3%	0.4%	0.4%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	0	200	205	210	215
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	0	0	0	0	0

（iv）事業全体の合計

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	2

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	6	15	26	37	48
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	6	15	26	37	48
全授業科目数（B）	9692	9692	9692	9692	9692
割合（A/B）	0.1%	0.2%	0.3%	0.4%	0.5%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	220	640	1045	1450	1855
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	30	60	100	140	180

（iii）国内連携大学　【大学名：静岡県立大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	1	8	7	14	
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	3	8	19	26	
全授業科目数（B）	1322	1230	1316	1251	
割合（A/B）	0.2%	0.7%	1.4%	2.1%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	10	229	133	325	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	0	0	0	0	

（iv）事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	10	25	28	41	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	16	29	56	99	0
全授業科目数（B）	10540	11047	11089	11080	0
割合（A/B）	0.2%	0.3%	0.5%	0.9%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	328	422	479	821	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	25	27	10	59	0

（5）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】　（単位：校）

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	1	0	9	9	9	9	9	9	9	9

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：上智大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ボストン・カレッジ	認定者数	0	0	2	2	3
	認定単位数	0	0	20	20	30
シアトル大学	認定者数	0	0	5	6	7
	認定単位数	0	0	50	60	70
ロヨラ・メアリーマウント大学	認定者数	0	0	1	1	2
	認定単位数	0	0	10	10	20
ゴンザガ大学	認定者数	0	0	1	1	2
	認定単位数	0	0	10	10	20
ポートランド大学	認定者数	0	0	1	1	2
	認定単位数	0	0	10	10	20
ノース・カロライナ大学シャーロット校	認定者数	0	0	2	2	3
	認定単位数	0	0	20	20	30
マルケット大学	認定者数	0	0	1	1	2
	認定単位数	0	0	10	10	20
サンフランシスコ大学	認定者数	0	0	3	3	4
	認定単位数	0	0	30	30	40
年度別認定者数合計		0	0	16	17	25
年度別認定単位合計		0	0	160	170	250

2. 国内連携大学　【大学名：お茶の水女子大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ヴァッサー大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	12	12	12	12
年度別認定者数合計		0	1	1	1	1
年度別認定単位合計		0	12	12	12	12

3. 国内連携大学　【大学名：静岡県立大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
なし	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】　（単位：校）

	2018年度		2019 年度		2020 年度		2021年度		2022年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0	0	0	4	9	2	3		

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】　（単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：上智 大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
ボストン・カレッジ	認定者数	0	0	5	1	
	認定単位数	0	0	49	3	
シアトル大学	認定者数	0	0	8	0	
	認定単位数	0	0	94	0	
ロヨラ・メアリーマウント大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
ゴンザガ大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
ポートランド大学	認定者数	0	0	1	1	
	認定単位数	0	0	18	4	
ノース・カロライナ大学シャーロット校	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
マルケット大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
サンフランシスコ大学	認定者数	0	0	4	0	
	認定単位数	0	0	58	0	
年度別認定者数合計		0	0	18	2	0
年度別認定単位合計		0	0	219	7	0

2. 国内連携大学　【大学名：お茶の水女子大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
ヴァッサー大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

3. 国内連携大学　【大学名：静岡県立大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
なし	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成３０年度採択）
令和４年度フォローアップ調査票

【タイプA】

<table>
<tr><td>大学名
（〇が代表大学）</td><td colspan="4">南山大学</td></tr>
<tr><td>主たる交流先</td><td>米国</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="3">日米をつなぐNU^4-COIL^2 ～地域に根ざしたテイラーメイド型教育プログラム～</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="3">Connecting Japan and the U.S. through NU^4-COIL^2: A Regionally Deep-Rooted Tailor-Made Educational Program</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>星野　昌裕</td><td>（所属・職名）</td><td>南山大学・グローバル化推進担当副学長</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="12">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用
https://office.nanzan-u.ac.jp/nu-coil/

１．取組内容の進捗状況　【（１）と（２）で１ページ以内、（３）と（４）で２ページ以内、（５）は１ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

2020年度に米国連携校と共同で設計したオンライン国際教育・交流プログラムのノウハウを大学全体で共有し、COIL型授業と留学・インターンシップを連動させたプログラムの量的拡大・質的充実化に取り組んだ。特にCOILと連動させた短期留学モデルをポストコロナを見据えて全学的に促進したことにより、米国以外のプログラムにおいてもこのモデルが導入された。本事業が日米間の連携からユニバーサルな連携へと着実に発展を遂げていると言える。また、長期留学と連動したインターンシップにおいては、地域活性化ビジネスを展開する米国企業の開拓や、本学学生と米国学生が共にインターンシップに参加する合同インターンシップの開発など新たな取組が実現した。COIL型授業は、全学FDにおいて学長自らも実践例を示すなどCOILの普及に努め、大学全体のCOIL科目数は目標値を上回り達成できた。2022年度は、2021年度までに形成した本交流プログラムの実施体制を補助期間終了後も維持・発展させるための全学的な議論を進めていく。

【特に優れた取組】

「国際産官学連携PBL科目」では、2020年度よりさらに1科目増設し、各科目のテーマや連携先企業に多様性を持たせた。様々な分野・領域を専攻する学生の受講が促されたことにより、社会実装につながる斬新なアイデアも創出され、アントレプレナーシップ醸成に資する取組として連携企業・団体から高評価を得た。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

米国連携校と本学教職員で構成される「NU-COIL連携協議会」をオンラインで複数回開催し、コロナ禍における各大学の授業内容や事業運営の状況を共有したほか、本事業終了後のプログラム自走化および発展に向けた課題を重点的に協議・確認した。また、学習成果のアセスメントを専門とする外部講師によるワークショップを開催し、ルーブリックの再検証や2022年度以降の授業改善に向けた取組を関係者で協議した。

【特に優れた取組】

ノースジョージア大学とその周辺地域に立地する日系企業と協議を重ね、渡日の叶わない米国学生に対しても企業での実践的な学びを提供するため、本学学生と米国学生が共に参加する「合同インターンシップ」を設計した。将来のキャリア形成を見据えた知日派人材育成という観点からも、産官学連携による地域に根ざしたテイラーメイド型プログラム開発の好事例となった。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

実渡航を伴う長期派遣を実現させるため、連携先大学との危機管理体制を入念に整備したほか、学生や保証人を対象とした説明会を開催し、コロナ禍における危機管理意識の向上を図った。加えて、渡航が叶った学生によるオンライン座談会をリアルタイムで開催し、次年度の留学希望者の不安を取り除くとともにモチベーション向上につなげた。受入については、短期・長期ともにプログラムをオンライン化して提供し、Language Buddyによる学習支援を講じたほか、入国に備えた教学面・生活面の支援体制を年間通じて維持した。蓄積したノウハウを2022年度以降も活用し、コロナ禍において安心して留学できる環境を提供する。

【特に優れた取組】

キャンパス隣接地に2022年4月に開寮する新たな国際学生宿舎において、全入居者を対象とした教育プログラムを提供する準備を進めた。このプログラムの導入により、寮内においても日本人学生と外国人学生が共に学び、身につけた国際力を実践する学びの環境が充実した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

本事業の特設Webサイト(日・英)やSNSを通じて、学生の成果物や授業の実践例などを年間通じて学内外に積極的に発信した。また、国際会議や本学主催のオンラインシンポジウムにおいて、本事業の取組内容や成果の普及に努めた。新たな取組としてCOIL型授業の最終成果発表を一般公開し、他大学教職員の参観を得た。2022年度は、他大学教職員のみならず、他大学生も参加可能なCOIL型交流イベントを企画・実践し、COIL型授業の興味・関心を高めていく。そこでの体験から、本学が他大学生にも開放しているCOIL科目の履修につなげる。

【特に優れた取組】

本学のCOIL型授業を他大学教職員へ一般公開したことが契機となり、県内の一つの大学と比較的柔軟な演習科目において2022年度に合同でCOILを実践することが決定し、本学の知見の横展開につながった。

（２）特記すべき成果

〇比較的フレキシブルな演習科目において、COIL経験の豊富な教員と初めて実施する教員が学部の垣根を越えて合同ゼミという形態で海外大学とCOILを実践する新たなアプローチが実現した。本交流モデルは、ノウハウの横展開という点で有効な手段であることが示された。
〇フィールドワークをともなう社会課題解決型の「国際産官学連携PBLモデル」を構築した。米国のデンバー大学および県内の障害者支援の社会福祉法人と連携し、「障害者のソーシャル・インクルージョン」をテーマとしたプロジェクトベースのCOIL型授業を開講した。本学の学生は障害者の方と本学保健センターの協力のもと、実際にキャンパス内で車椅子でのフィールドワークを実施し、調査結果を基に米国大学の学生とCOILで議論を深めた。日米の参加学生は、双方のキャンパスにおけるバリアフリー施策の現状を歴史・文化的背景や法令整備など多面的に考察し、最終課題として本学のバリアフリーマップを制作した。マップは本学の公式Webページで活用され、本事業で連携する地元新聞社においても当事者の声に基づいた社会課題解決に繋がる国際教育交流モデルとして本取組が紹介された。

（３）オンラインを活用した工夫・改善点

◯実渡航を伴う留学が制限されている中で、2020年度に米国連携校と共同で設計した正課外のオンライン国際教育・交流プログラムをベースに使用言語や内容を拡充し、3つの学習プログラムへと発展させた。参加対象者も米国連携校以外の海外協定校にも広く展開し、年間を通じて多様な学生交流の機会を創出した。具体的には、近代日本文化に関するミニ講義と学生同士の議論で編成された「英語によるアカデミック・ディスカッション型」、学生TAがファシリテーターとなり参加者同士の会話をサポートする「日本語による異文化理解・言語学習型」、「英語による異文化理解・言語学習型」の3つのカテゴリーを構築した。この学習プログラムでは、一定の要件を満たした学生に修了証を交付する仕組みを東京オリンピックの開催に合わせて「COILympic」と称して整備し、参加者促進の更なる工夫を図った。コロナ禍により実留学が制約を受ける中で構築された本プログラムは、本学学生および海外学生の語学に対する自信や相互理解の促進に貢献したほか、互いの大学に対する興味関心を高める成果があった。

◯実渡航を予定していたノースジョージア大学における短期留学プログラムをオンラインに切り替えて実施することとなったため、参加者のモチベーション維持の一環として双方の学生がキャンパスや周辺地域を紹介し合う同期型のバーチャルキャンパスツアーを新たに実践した。本取組は、相手先大学への親近感向上に貢献し、将来の留学への動機づけに高い成果が期待できることから、今後、実渡航が可能になった後もオンラインを活用した有益な事例として推進し、様々な連携校との間での実現を目指していく。

２．交流学生数の実績等【（1）（2）（3）それぞれ２ページ以内】

（1）本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計１）		16 人	100 人	107 人	109 人	110 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	91 人	92 人	92 人	93 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	91 人	92 人	92 人	93 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		6 人	9 人	15 人	17 人	17 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	9 人	15 人	17 人	17 人
	無	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		10 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	10 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計２）		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（A=小計１＋２）		16 人	100 人	107 人	109 人	110 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	91 人	92 人	92 人	93 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	91 人	92 人	92 人	93 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		6 人	9 人	15 人	17 人	17 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	9 人	15 人	17 人	17 人
	無	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		10 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	10 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②日本人学生数の実績

		2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数（B）		18 人	104人 人			15人 人			395人 人			0人 人		
			実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
			104人	0人	0人	0人	15人	0人	12人	383人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】														
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	92 人	0 人	0 人	0 人	14 人	0 人	0 人	383 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	92 人	0 人	0 人	0 人	14 人	0 人	0 人	383 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		8 人	12 人	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	12 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	12 人	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	12 人	0 人	0 人	人	人	人
	無	8 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		10 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	10 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（B/A）		112.5%	104.0%			14.0%			362.4%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

コロナ禍により実渡航が様々な制約を受ける中で、COIL型教育を活用した授業を幅広い科目・分野において展開し、双方向の学生交流の機会を確保した。また、オンラインを活用した短期プログラムのノウハウを全学展開し、費用や時間の面で実渡航を伴う留学を断念していた幅広い学生層の参加を可能とするポストコロナを見据えた多様な形態の交流プログラムを拡充させた。

【長期派遣】
・連携先大学との危機管理を含めた緊密な連携体制のもと、17名の目標に対して実渡航12名の派遣を実現させた。企業訪問型インターンシップについても、アリゾナ州において新たな訪問先となる米国企業を開拓し、コロナ禍にもかかわらず全ての地域において、日米比較という観点でビジネスに関する実践的な学びの機会を提供することができた。連携先企業との関係性を維持・強化させるとともに、事前・事後の学びの機会を充実させることで学生のキャリア形成により貢献できる長期留学と連動したインターンシッププログラムへの発展を目指す。

【短期派遣】
・実渡航を計画していたアリゾナ州立大学のサマープログラムおよびノースジョージア大学のNU-COIL短期留学プログラムをオンラインに切り替えて実施し、それぞれ63名と14名の学生が参加した。また、コロナ禍において渡航を伴う留学を断念した学生や諸事情により留学をあきらめていた多様な学生のニーズに応えるために、アリゾナ州立大学における夏季休暇を利用した英語イマージョンプログラム（Online English Immersion Program)を新設し、13名の学生が参加した。これらのプログラム以外にも、双方向型交流を担保した同期型セッションを含むCOIL型授業を推進し、293名の参加を得た。

【特に優れた取組】
2020年度に培ったノースジョージア大学とのオンライン短期留学プログラムのノウハウを各学部・学科主催の短期研修にも横展開したことで、米国連携校以外の国・地域においてもCOIL型教育を事前・事後に活用するポストコロナを見据えた短期留学モデルの全学的促進が図られた。

（2）本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計３）		6 人	27 人	41 人	35 人	44 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	19 人	18 人	19 人	18 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	19 人	18 人	19 人	18 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		6 人	8 人	13 人	16 人	16 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	8 人	13 人	16 人	16 人
	無	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	10 人	0 人	10 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	10 人	0 人	10 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計4）		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（C=小計3＋4）		6 人	27 人	41 人	35 人	44 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	19 人	18 人	19 人	18 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	19 人	18 人	19 人	18 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		6 人	8 人	13 人	16 人	16 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	8 人	13 人	16 人	16 人
	無	6 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	10 人	0 人	10 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	10 人	0 人	10 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
(内訳) COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②外国人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数（D）	9　人	31人　人			4人　人			240人　人			0人　人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		31人	0人	0人	0人	4人	0人	0人	240人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】													
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流	0 人	16 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	234 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	0 人	16 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	234 人	0 人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流	9 人	15 人	0 人	0 人	0 人	4 人	0 人	0 人	4 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	0 人	15 人	0 人	0 人	0 人	4 人	0 人	0 人	4 人	0 人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	9 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人	0 人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（D/C）	150.0%	114.8%			9.8%			685.7%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

コロナ禍において日本への入国制限が続く中、短期・長期ともにプログラムを全面オンライン化して提供しつつ、入国ができた場合に備えて教学面・生活面の支援が迅速にできる体制を維持し続けた。加えて、2020年度に構築した正課外のオンライン国際教育・交流プログラムの内容や使用言語の多様化を図り、条件を満たした学生には修了証を付与する制度を連携校と協議の上で設計した。これらのオンライン学習プログラムは日本人学生との交流機会を十分に確保するものとして運営されており、渡航を伴う留学再開以降も、学生の様々なニーズに応える形で継続し、語学力の向上や本学での留学生活におけるバディを見つける機会として活用していく。

【長期受入】
目標16名に対して24名（実人数）を採用し受入予定であったが、コロナの影響により渡航を伴った受入が中止となり、オンライン化したプログラムの受講者は4名であった。

【短期受入】
目標19名としていたサマープログラム（４週間/8週間）はオンラインに切り替えて提供したが、米国連携校からの参加実績はなく、目標数未達となった。一方で、ノースジョージア大学とは教員同士の協議の上、受入短期留学プログラムの代替としてCOIL型授業が成立し、米国学生15名が日本語や日本文化に関して6週間にわたって本学の学生と協働学習する交流プログラムが実現した。その他にも、単位認定を伴う双方向型交流を担保した同期型セッションを含むCOIL型授業を推進し、219名の参加を得た。加えて、実渡航は断念したが学ぶ意欲のある連携校の学生ニーズに応えるために、連携校コーディネーターと協議の上で構築した正課外のオンライン国際教育・交流プログラムに参加した連携校学生18名のうち条件を満たした２名の学生には修了証を交付した。

【特に優れた取組】
実渡航が叶わない連携校学生のニーズに応えるために、正課外のオンライン国際教育・交流プログラムのコンテンツや使用言語の多様化を図り、条件を満たした学生には修了証を付与する仕組みを連携校コーディネーターと協議の上で構築した。また、これらのオンライン学習プログラムのファシリテート役を担えるTAの育成にも力を入れ、持続可能な運営体制の整備を進めた。

（３）　その他（上記（１）・（２）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人

（4）本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　南山大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	0

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	1	13	17	21	24
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	3	17	30	38	48
全授業科目数（B）	5634	5634	5634	5634	5634
割合（A/B）	0.1%	0.3%	0.5%	0.7%	0.9%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	20	260	340	420	480
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	15	195	255	315	360

（iv）事業全体の合計

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	0

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	1	13	17	21	24
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	3	17	30	38	48
全授業科目数（B）	5634	5634	5634	5634	5634
割合（A/B）	0.1%	0.3%	0.5%	0.7%	0.9%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	20	260	340	420	480
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	15	195	255	315	360

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：　南山大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	25	18	28	
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	5	38	38	53	
全授業科目数（B）	5634	5289	5393	5464	
割合（A/B）	0.1%	0.7%	0.7%	1.0%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	90	410	294	605	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	50	475	353	480	

（iv）事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	2	25	18	28	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	5	38	38	53	0
全授業科目数（B）	5634	5289	5393	5464	0
割合（A/B）	0.1%	0.7%	0.7%	1.0%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	90	410	294	605	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	50	475	353	480	0

（5）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 （単位：校）

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 （単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ノースジョージア大学	認定者数	0	1	2	3	3
	認定単位数	0	20	40	60	60
ノーザンケンタッキー大学	認定者数	1	1	2	2	2
	認定単位数	20	20	40	40	40
メリーランド大学ボルティモアカウンティ校	認定者数	1	1	2	2	2
	認定単位数	20	20	40	40	40
アリゾナ州立大学	認定者数	2	3	4	5	5
	認定単位数	40	60	80	100	100
ニューヨーク市立大学クイーンズ校	認定者数	1	1	2	2	2
	認定単位数	20	20	40	40	40
ディキンソン大学	認定者数	0	1	1	1	1
	認定単位数	0	20	20	20	20
ジョージタウン大学	認定者数	1	1	1	1	1
	認定単位数	20	20	20	20	20
パデュー大学ノースウエスト校	認定者数	0	0	1	1	1
	認定単位数	0	0	20	20	20
年度別認定者数合計		6	9	15	17	17
年度別認定単位合計		120	180	300	340	340

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 （単位：校）

	2018年度		2019 年度		2020 年度		2021年度		2022年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	8	8	8	8	8	8	8	8		

（ⅱ）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 （単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
ノースジョージア大学	認定者数	0	0	1	0	
	認定単位数	0	0	13	0	
ノーザンケンタッキー大学	認定者数	0	1	3	0	
	認定単位数	0	30	73	0	
メリーランド大学ボルティモアカウンティ校	認定者数	0	3	2	0	
	認定単位数	0	25	38	0	
アリゾナ州立大学	認定者数	0	2	2	0	
	認定単位数	0	49	31	0	
ニューヨーク市立大学クイーンズ校	認定者数	0	1	1	0	
	認定単位数	0	20	8	0	
ディキンソン大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
ジョージタウン大学	認定者数	0	0	1	0	
	認定単位数	0	0	16	0	
パデュー大学ノースウエスト校	認定者数	0	0	2	0	
	認定単位数	0	0	23	0	
年度別認定者数合計		0	7	12	0	0
年度別認定単位合計		0	124	202	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成３０年度採択）
令和４年度フォローアップ調査票

【タイプA】

<table>
<tr><td>大学名
（○が代表大学）</td><td colspan="4">関西大学</td></tr>
<tr><td>主たる交流先</td><td>米国</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td>【和文】</td><td colspan="3">グローバルキャリア・マインドを培うCOIL Plus プログラム</td></tr>
<tr><td>【英文】</td><td colspan="3">COIL Plus Program to Develop Global Career Mindset</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業責任者
※交替年月日は変更があった場合のみ記入</td><td>（氏　名）</td><td>藤田　高夫</td><td>（所属・職名）</td><td>関西大学副学長・国際部長</td></tr>
<tr><td>（交替年月日）</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="12">海外相手大学追加調書分
相手大学名

※追加調書を提出した大学のみ記入</td><td colspan="3">大学名</td><td rowspan="2">国名</td></tr>
<tr><td></td><td>（日本語表記）</td><td>（英語表記）</td></tr>
<tr><td>1</td><td>ナンヤン・ポリテクニック</td><td>Nanyang Polytechnic</td><td>シンガポール</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用
http://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/

１．取組内容の進捗状況　【（1）と（2）で１ページ以内、（3）と（4）で２ページ以内、（5）は１ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。

（１）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

①交流プログラムの内容

【派遣】

・**Online Global Mindset Program（2021年8～9月）**ミシガン州立大学（MSU）と連携したオンライン型留学プログラムで、日本にいながらにしてグローバルな視点と異文化理解能力を育むことを目的とした。各セッションでは毎回異なるゲストスピーカーを迎え、国際ビジネスや海外での就職や学び、時事問題などのトピックを取り上げた。

・**Kansai University Business Camp2021（2022年2 ～3月）**企業家や専門家からの講義を元に、国際的な時事問題を取り上げながら、国際的なビジネスの基礎知識だけでなく、グローバル人材として必要な異文化間コミュニケーションや異文化理解について学んだ。さらに、企業家や専門家からの講義を元に、グループでビジネスプランを作り上げて最終発表をオンライン上で行った。

【派遣・受入】

・**UMAP-COIL Joint Program 2021（2021年7～9月）**SDGs（持続可能な開発目標）に関連した外交政策、国際情勢、貿易・金融、防衛などの幅広いテーマを取り上げ、国際環境における現代の主要な社会問題について、本学の学生と12ヵ国・地域の65名の学生がディスカッションを行った。

・**J-MCP 21st Century Skills Program（2022年2～3月）**Japan Multilateral COIL Projectとして、21世紀スキルと呼ばれるスキルを獲得することを念頭に置いたプログラムです。プレゼンテーションスキル、批判的思考、異文化間コラボレーション・異文化対応コミュニケーション能力の向上、デジタルリテラシーの習得など、多様なスキルを14か国・地域で合計144名（本学9名、連携大学22名、海外大学113名）がともに学んだ。

【受入】

・**KU-EOL（Engaged/Exchange Online Learning）（秋学期）**本学の協定校や海外連携大学に提供することで、本学学生にとって多様な学生とCOIL実践を通して学ぶ機会を設けることができた。

【特に優れた取組】

Kansai University Business Camp2021では、メタバースツールであるVirberaを初めて使用したPBL型のCOIL活動を行った。また、米国のColorado State University、Bridgewater State Universityなどから合計３名がフル参加し、常にアメリカ人学生とのディスカッションを伴う活動をすることができた。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

J-MCP 21st Century Skills Programでは、Japan Multilateral COIL Project(J-MCP)として開催し、本学協定校やIIGEネットワークの各機関から多数の参加があり、本学学生や連携大学も含めて総勢144名がMultilateral COIL を実施した。

【特に優れた取組】

IIGEとして初めてのデジタル認証（Digital Credentials）となるデジタルバッジを発行し、オンラインプログラム参加の新たな価値創造をもたらす基盤を確立したと言える。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

各大学がコロナ禍における対応に苦慮する中、本学は2020年からいち早く海外の学生にOnline ExchangeをKU-EOLとして実施した。また、Mi-Room（Multilingual Immersion Room）では、異文化や国際交流に目覚める場所として各種の言語セッションやイベントを提供しており、よりリラックスした気持ちで学生同士が国際交流できるよう部屋をイメージチェンジすることで、今後の受入学生や日本人学生の交流の場となることが更に促進され、将来的に米国留学に誘うことができる環境を整えた。

【特に優れた取組】

交換留学生が不在の中で本学学生の国際教育の熱を冷まさないように、KU-EOLの継続的な発展を進めた。本学の協定校やIIGEネットワークの大学を中心に大変好評をいただいており、春学期10科目115名、秋学期9科目99名をそれぞれ受け入れることができ、受講証明となるCertificateも発行した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

これまでと同様に、本事業に関する委員会を設定（グローバル教育イノベーション推進機構運営委員会）を11回開催し、各学部から専任教員が委員として参加し、事業の進捗状況及び取組に関する認識の波及に務めた。また、本事業で展開しているプログラムについては、国際部が全学の教員・学生に発信しているLINE、ホームページサイト（グローバルナビ)などを通して常に発信を行っている。また、少しでも学生の認知度を向上させるために、英語開講科目の授業前後に教室内でのビラ配りやアナウンスを行い、広くCOILカリキュラムの周知を行っている。

【特に優れた取組】

各プログラムの募集要項やフライヤーに加えて、学生により魅力的に広報するためにYoutube動画を配信して認知度の向上に努めている。また、KU-EOLでは、海外の学生でもアクセスしやすいように専用のWebサイトを開設している。

（２）特記すべき成果

COIL科目の受講者数は2020年度に比べて微減となったが、学内のCOIL教員数が徐々に拡大してきたこともあり、「大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数」が昨年度比130％以上を記録した。また、Multilateral COILの強化によって、受入の外国人学生数が昨年度比164％を記録した。本学からの派遣学生数は微増にとどまっているが、派遣・受入を兼ね備えたプログラムもあるため、本学の学生がより多様な学生と共修する機会を実現することができた。

（３）オンラインを活用した工夫・改善点

オンラインで学生間の関係構築をうまく促進させる上で、CMSであるimmerseUに加え、zoom以外にも、discord、miroなどの多人数が一度に参加しブレーンストーミングなどの活動を可能にするツールを使用した。Business Campでは、本学で初となるビジネスメタバースツール「Virbela」を使用し、より没入度の高いPBL型のプログラムを展開した。

２．交流学生数の実績等【（１）（２）（３）それぞれ２ページ以内】

（１）本事業において海外に留学する日本人学生数の推移

①日本人学生数の派遣達成目標

●申請時の計画調書記載人数

			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計１）			2 人	65 人	82 人	90 人	91 人
【交流形態別　内訳】							
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	46 人	57 人	57 人	57 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	46 人	57 人	57 人	57 人
		無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			2 人	19 人	25 人	33 人	34 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	2 人	19 人	25 人	33 人	34 人
		無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計２）			0 人	0 人	4 人	24 人	29 人
【交流形態別　内訳】							
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	4 人	21 人	25 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	4 人	21 人	25 人
		無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	3 人	4 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	3 人	4 人
		無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
		無	人	人	人	人	人

●合計人数

			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（A=小計１＋２）			2 人	65 人	86 人	114 人	120 人
【交流形態別　内訳】							
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	46 人	61 人	78 人	82 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	46 人	61 人	78 人	82 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流			2 人	19 人	25 人	36 人	38 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	2 人	19 人	25 人	36 人	38 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流			0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
		無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②日本人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
合計人数（B）	15　人	21人　人			55人　人			58人　人			0人　人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		0人	0人	21人	0人	55人	0人	0人	58人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】													
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流	15 人	0 人	0 人	15 人	0 人	53 人	0 人	0 人	44 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	15 人	人	人	15 人	人	53 人	人	人	44 人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	0 人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	人	人	人	1 人	人	人	人	人	0 人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	0 人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流	0 人	0 人	0 人	5 人	0 人	2 人	0 人	0 人	14 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	人	人	人	5 人	人	2 人	人	人	14 人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	人	人	人	人	人	人	人	人	0 人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	0 人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（B/A）	750.0%	32.3%			64.0%			50.9%			0.0%		

③交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

2021年度は一時改善したかと思えたコロナ禍が、オミクロン株の台頭で再度海外への移動を困難とする状況に見舞われた。長期学位取得型や１セメスター以上の留学については一部の学生は参加していたが、本事業において推進しているCOILPlusの比較的短期間のStudy Abroad programについてはリスクを考えると、保留せざるを得ない１年となった。この中で、各学期で提供している科目を活用したCOIL及び休み期間に実施するMultilateral COILプログラムに学生たちを誘致し、バーチャルで参加する海外の学生との接点をできるだけ作り活動を行った。
2021年度から着手したオンラインプログラム（日本人学生の参加をここでは「派遣」として取り扱う）には、複数のプログラム合計289名の参加があった。また、新たに始まった国際化促進フォーラムの一環としての事業（J-MCP）は、合計で144名（本学9名、連携大学22名、海外大学113名）の参加があった（2022年2-3月実施）。

パンデミックの状況を受けて本学で開始したCOIL型教育の取組の今１つが、KU－EOL（Kansai University Engaged/Exchange Online Learning)プログラムである。URL　https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/news/detail.php?seq=127　120を超えるIIGEのグローバルパートナーネットワークの大学に解放し、本学のセメスターにおいて実施している科目を活用してCOIL型協働学習を取込み、国内で学習する日本人学生と、海外の学生の共修の機会を設けることを目的とし実施しているものである。2020年度の秋から実施しているこの取組は、学内において、コロナ禍への対応だけではなく、オンライン国際教育のポストコロナ禍のネクストノーマルの次代においても重要であるとの位置づけから、オンラインでの科目開講を維持する新しい動きを象徴するものである。2021年度も、来日ができない層や、渡航留学は考慮できない層も積極的に参加してくれており、よりインクルーシブな教育の提供としてCOIL型教育の新しい価値創造につながる結果ができたと考えている。

【特に優れた取組】
2021年度にJ-MCP(Japan Multilateral COIL Project)を開始した。前形となるUMAP-COIL programでは１科目の開講であったが、J-MCPでは2021年春に２科目を実施し、2022年度には３つの異なるモジュールの提供を進めている。高大連携の一つの活動として大阪府下の高校生も本事業へ試行的に参加した。なお2022年度には正式履修につながる高校が合計３，オブザーバー参加校も合計６校手をあげている。

（2）本事業において受け入れる外国人学生数の推移

①外国人学生数の達成目標

●申請時の計画調書記載人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計３）		5 人	21 人	26 人	37 人	37 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		5 人	8 人	11 人	15 人	15 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	5 人	8 人	11 人	15 人	15 人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	13 人	15 人	22 人	22 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	13 人	15 人	22 人	22 人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●海外相手大学追加調書分

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
年度別合計人数（小計4）		0 人	0 人	0 人	15 人	25 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	10 人	20 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	10 人	20 人
	無	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	5 人	5 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	5 人	5 人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	人	人	人	人	人
	無	人	人	人	人	人

●合計人数

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
合計人数（C=小計3＋4）		5 人	21 人	26 人	52 人	62 人
【交流形態別　内訳】						
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流		5 人	8 人	11 人	25 人	35 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	5 人	8 人	11 人	25 人	35 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	13 人	15 人	27 人	27 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	13 人	15 人	27 人	27 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無	有	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
	無	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人

②外国人学生数の実績

	2018年度	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
年度別合計人数（D）	5 人	17人 人			248人 人			408人 人			0人 人		
		実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド	実渡航	オンライン	ハイブリッド
		0人	0人	17人	0人	248人	0人	0人	408人	0人	0人	0人	0人
【交流形態別　内訳】													
単位取得を伴う交流期間３ヶ月未満の交流	0 人	0 人	0 人	9 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	人	人	人	9 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
単位取得を伴う交流期間３ヶ月以上の交流	5 人	0 人	0 人	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	5 人	人	人	2 人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月未満の交流	0 人	0 人	0 人	6 人	0 人	248 人	0 人	0 人	408 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	人	人	人	6 人	人	248 人	人	人	408 人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
上記以外の交流期間３ヶ月以上の交流	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　有	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
（内訳）COIL型教育の活用の有無　無	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
達成目標に対する実績の割合（D/C）	100.0%	81.0%			953.8%			784.6%			0.0%		

③交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

昨年度に引き続き、2021年度もコロナ禍の影響によって、交換留学と短期留学が全て入国不可となり、本学の学生達も海外の学生とのキャンパスでの共修の場を失った。
これを受け、本学では従来から実施している複数大学が連携して行うCOIL (本学名称「Multilateral COIL-カリキュラム協働構築型」) とIIGEが開発したカリキュラムを多数の大学の学生に提供するCOIL/VEプログラム (本学名称「Multilateral COIL-IIGE発信型」) の強化に努めた。

前者のMultilateral COIL-カリキュラム協働構築型においては、国際化促進フォーラムとして実施したJapan Multilateral COIL Project（J-MCP）において、創価大学からMain Facilitatorとして派遣いただき、本学の担当教員と協働のうえプログラムを構築した。結果的に、14か国・地域で合計144名（本学9名、連携大学22名、海外大学113名）が共修する場を創設できたことは、大学間連携を行う重要な一歩を踏み出したと言える。

Multilateral COIL-IIGE発信型については、UMAP-COIL Joint Program 2021として実施した。SDGs（持続可能な開発目標）に関連した外交政策、国際情勢、貿易・金融、防衛などの幅広いテーマを取り上げ、多様な学生が集まるほどディスカッションの内容が充実する授業設計を行った。2020年度から人気を博していたプログラムであったが、今年度も本学の学生14名と12ヵ国・地域の65名の学生が参加した。

2022年度以降もJ-MCPはモジュールを更に充実させ、実施する予定である。UMAPとのJointプログラムについては、J-MCPで集約できているため、今後のコロナ禍の状況を見てモビリティとしての復活をさせるか検討していく所存である。

【特に優れた取組】
従来から受け入れた学生には短期・長期に関わらずグローバル教育イノベーション推進機構長名でのCertificateを発行していたが、J-MCPを修了した学生にはデジタル認証（Digital Credentials）となるデジタルバッジを発行し、更に教育の質保証を担保した形での修了証を発行することができた。

（３）　その他（上記（１）・（２）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
2021年8月	Online Global Mindset Program	11 人
2021年8月	UMAP-COIL Joint Program 2021	15 人
2022年2月	Kansai University Business Camp 2021	9 人
		人

（4）本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目の目標と実績

【本事業で計画しているCOIL型教育手法を活用した授業科目数及び受講者数の達成目標】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：関西大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	12

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	11	11	18	25	33
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	23	30	36	43	50
全授業科目数（B）	14623	14623	14623	14623	14623
割合（A/B）	0.2%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	275	275	450	625	825
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	330	330	540	750	990

（ii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：関西大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	4	17	19	16	
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	18	34	34	45	
全授業科目数（B）	14443	14314	14264	14412	
割合（A/B）	0.1%	0.2%	0.2%	0.3%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	105	192	269	219	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	69	165	586	350	

（ii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iv）事業全体の合計

［2017年度通年］COIL型教育手法を活用した授業科目数	12

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	11	11	18	25	33
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	23	30	36	43	50
全授業科目数（B）	14623	14623	14623	14623	14623
割合（A/B）	0.2%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	275	275	450	625	825
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	330	330	540	750	990

（iii）国内連携大学　【大学名：　　　大学】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数					
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）					
全授業科目数（B）					
割合（A/B）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）					
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）					

（iv）事業全体の合計

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
本事業におけるCOIL型教育手法を活用した授業科目数	4	17	19	16	0
大学全体のCOIL型教育手法を活用した授業科目数（A）	18	34	34	45	0
全授業科目数（B）	14443	14314	14264	14412	0
割合（A/B）	0.1%	0.2%	0.2%	0.3%	
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（日本人学生）	105	192	269	219	0
本事業におけるCOIL型教育の受講者数（外国人学生）	69	165	586	350	0

（5）本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

（ｉ）単位互換を実施する海外相手大学数【計画】 （単位：校）

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
単位互換を実施する海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	1	0	2	0	2	0

（ii）相手大学ごとの単位互換内訳【計画】 （単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学　【大学名：関西大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ニューヨーク州立大学アルバニー校	認定者数			2	3	3
	認定単位数				6	6
ジェームズマディスン大学	認定者数				2	3
	認定単位数				6	6
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	2	5	6
年度別認定単位合計		0	0	0	12	12

2. 国内連携大学　【大学名：　　　大学】

相手大学名		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

【2021年度末における目標の達成状況】

（ｉ）単位互換を実施した海外相手大学数【実績】 （単位：校）

	2018年度		2019 年度		2020 年度		2021年度		2022年度	
単位互換を実施した海外相手大学数	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0		

（ii）相手大学ごとの単位互換内訳【実績】 （単位：認定者数は人、認定単位数は単位）

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

（ｉ）代表申請大学　【大学名：関西大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
ニューヨーク州立大学アルバニー校	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
ジェームズマディスン大学	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
	認定者数	0	0	0	0	
	認定単位数	0	0	0	0	
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学　【大学名：　　　大学】

相手大学名		2018年度	2019 年度	2020 年度	2021年度	2022年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（平成３０年度採択）
令和４年度フォローアップ調査票

【タイプB】

大学名 （〇が代表大学）	関西大学			
主たる交流先	米国			
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	（氏　名）	藤田　高夫	（所属・職名）	関西大学副学長・国際部長
	（交替年月日）			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ウェブサイトにおいて、各事業のリンク先として使用
https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/

１．取組内容の進捗状況　【（1）と（2）で１ページ以内、（3）と（4）で２ページ以内、（5）は１ページ以内】

本事業における2021年度の取組内容について記入してください。

（1）取組の進捗状況を踏まえた、各観点における現段階の課題と今後の展望

プラットフォーム構築プログラムの内容

ウェビナーの開催

2021年度、本学はウェビナーやワークショップをオンライン上で合計28回主催し、延べ合計3300名を超える参加があった。特に6月5日～7月2日まで開催した言語学習中心型COIL「Language Learning COIL」(LLC)では、 ALLEX財団 (Alliance for Language Learning and Educational Exchange)と協働し、 参加した10組に対して同期・非同期の両面でタスク提案を行った。また、2021年度秋学期のCOIL期間中にもIIGEが引き続きサポートを行った。（https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/jp/COILPlus/detail.php?seq=198）

Kansai University International Forum

アジア、ヨーロッパ、北米の各国からスピーカーや参加者を迎え、COIL/VE（Virtual Exchange）が今後の国際教育の発展に果たす重要な役割について発信や意見交換を行った。インタラクティブなウェビナーとワークショップにするために、メタバースツールであるoViceをIIGEとして初めて利用した。メタバース会場では、JPN－COIL協議会の正会員が各大学の事例紹介を動画と共に行うポスターセッションを設置した。

JPN－COIL協議会

2018年に発足したJPN-COIL協議会は、2021年度についても順調に会員数を伸ばしてきた。日々、同協議会への入会相談をメールや電話では受けている状況である。また、コロナ禍が少し落ち着きを見せてきた３月には北海道からの大学の視察もあったことから、さらにネットワークの重要性が高まっていることは明らかである。（2022年6月16日現在、正会員51大学、賛助会員10団体、個人会員29名、国際会員5大学が加盟）詳細はURLを参照のこと。（https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/jp/JPN-COIL/）

I-Paper （IIGE白書）の発行

IIGE白書（通称「I-Paper」）はCOILに関する事業報告、情報共有のリソースの一つとして、2019年4月から定期的に発行し、本年度は計2回発行した。全紙バイリンガルで発行し、より多くの人の手にわたるよう、本機構ウェブサイトでダウンロードが可能となっている。本書をダウンロードした人数は、2020年度は203名であったが2021年度はダウンロードも含め配布冊数は316と増加したことから国内外問わずCOIL型教育実践への関心度の高まりが伺える。

【特に優れた取組】
6月5日～7月2日まで開催した言語学習中心型COIL「Language Learning COIL」(LLC)では、 ALLEX財団 (Alliance for Language Learning and Educational Exchange)と協働し、 参加した10組に対して同期・非同期の両面でタスク提案を行った。また、2021年度秋学期のCOIL期間中にもIIGEが引き続きサポートを行った。（https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/IIGE/jp/COILPlus/detail.php?seq=198）

（2）特記すべき成果

上記の取組内容を受けてますますIIGEネットワークは拡大の一途を辿っている。特に、顕著であったのは2022年3月から開始したJapan Multilateral COIL Project(J-MCP)において、本学協定校やIIGEネットワークの各機関から多数の参加があり、本学学生や連携大学も含めて総勢144名がMultilateral COIL科目に参加した。また、IIGEとして初めてのデジタル認証（Digital Credentials）となるデジタルバッジを発行し、オンラインプログラム参加の新たな価値創造をもたらす基盤を確立したと言える。

（3）オンラインを活用した工夫・改善点

毎回100名の参加を越えるJPN－COIL協議会総会では、事例紹介などに終始することも多く、十分な意見交換の時間が確保できていなかった。2021年度第2回総会（2022年3月8日開催）では、5つのテーマに基づいたモデレーターと話題提供者を募り、参加者それぞれが希望するテーマでのディスカッションに十分な時間を確保した。

２．取組実績 【（１）～（４）各１ページ以内】

（１）横展開に関する目標と実績

【事業申請時の達成目標】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
COIL型教育を活用する大学が加盟する JPN-COIL協議会への参加大学数(日本)	10	30	50	70	100
COIL型教育を活用する科目数（日本）	40	150	250	350	500
COIL型教育を活用する大学数（米国）	30	40	50	60	70
COIL型教育普及のための説明会実施回数（日米）＜対面&Webinar形式＞	3(日3)	7(日6米1)	7(日6米1)	7(日6米1)	7(日6米1)
COIL型教育普及のための説明会参加者数（日本）＜対面形式＞	50	50	50	50	50
COIL型教育普及のための説明会参加者数（日本）＜Webinar形式＞	70	150	200	200	200
COIL型教育実践のスキルを本PFのセミナー等で修得し、COIL教育を実施した教員数	40	140	270	450	670

【2021年度末における目標の達成状況】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
COIL型教育を活用する大学が加盟する JPN-COIL協議会への参加大学数(日本)	18	20	29	48	
COIL型教育を活用する科目数（日本）	99	170	360	536	
COIL型教育を活用する大学数（米国）	21	64	91	83	
COIL型教育普及のための説明会実施回数（日米）＜対面&Webinar形式＞	5（日4米1)	35(日32米3)	48	27	
COIL型教育普及のための説明会参加者数（日本）＜対面形式＞	54	120	0	0	
COIL型教育普及のための説明会参加者数（日本）＜Webinar形式＞	24	228	2548	3323	
COIL型教育実践のスキルを本PFのセミナー等で修得し、COIL教育を実施した教員数	28	87	163	381	

（２）質の向上に関する目標と実績

【事業申請時の達成目標】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
COIL授業実践のためのEMI※セミナー実施回数 ＜対面&Webinar形式計＞	4	4	4	4	3
COIL授業実践のためのEMI※セミナー参加者数 ＜対面&Webinar形式計＞	100	100	100	100	90
ＩＴトレーニングセミナー実施回数 ＜対面形式&Webinar 形式＞	4	4	4	4	3
ＩＴトレーニングセミナー参加者数 ＜対面&Webinar形式計＞	100	100	100	100	90
サイバー危機管理、情報管理、著作権セミナー 実施回数＜対面形式& Webinar形式＞	3	3	3	3	3
サイバー危機管理、情報管理、著作権セミナー 参加者数＜対面&Webinar形式計＞	60	90	120	120	120
評価手法に関するセミナー実施回数 ＜対面&Webinar形式計＞	4	4	4	4	4
評価方法に関するセミナー参加者数 ＜対面&Webinar形式計＞	60	90	100	120	120
米国の教育制度、単位互換、成績管理セミナー 実施回数＜対面形式&Webinar形式＞	4	4	4	4	4
米国の教育制度、単位互換、成績管理セミナー 参加者数＜対面&Webinar形式計＞	60	80	90	90	90
各セミナー参加者の研修修了までの達成比率（５種の 全セミナーへの参加、課題提出完了までを遂行）	（全体の） 50%	60%	80%	80%	90%

【2021年度末における目標の達成状況】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
COIL授業実践のためのEMI※セミナー実施回数 ＜対面&Webinar形式計＞	33	9	31	25	
COIL授業実践のためのEMI※セミナー参加者数 ＜対面&Webinar形式計＞	48	64	2407	2588	
ＩＴトレーニングセミナー実施回数 ＜対面形式&Webinar 形式＞	1	10	34	26	
ＩＴトレーニングセミナー参加者数 ＜対面&Webinar形式計＞	22	140	2548	3010	
サイバー危機管理、情報管理、著作権セミナー 実施回数＜対面形式& Webinar形式＞	0	2	6	0	
サイバー危機管理、情報管理、著作権セミナー 参加者数＜対面&Webinar形式計＞	0	27	1500	0	
評価手法に関するセミナー実施回数 ＜対面&Webinar形式計＞	5	6	10	6	
評価方法に関するセミナー参加者数 ＜対面&Webinar形式計＞	218	123	1288	344	
米国の教育制度、単位互換、成績管理セミナー 実施回数＜対面形式&Webinar形式＞	1	3	23	4	
米国の教育制度、単位互換、成績管理セミナー 参加者数＜対面&Webinar形式計＞	40	96	2459	148	
各セミナー参加者の研修修了までの達成比率（５種の 全セミナーへの参加、課題提出完了までを遂行）	0	93.75	92.86	72.25	

（3）任意指標に関する目標と実績

【事業申請時の達成目標】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
①米国と、米国以外の国・地域を取り込んだ高等教育機関におけるCOIL活用実績数	0	15	20	30	30
②COILを用いた発展型プログラムで実現した日米学生のモビリティ数（Multilateral COIL Program, Joint　Honors-COIL Program, Joint　AP-COIL Programを含む。In/out総数）	0	15	30	50	50
③IIGEが提供するマッチングサイトを活用し成立したCOIL活動数	0	15	50	50	50
④IIGE-SUNYが提供するWebinar参加者数	200	400	400	400	400
⑤COIL-BEVI効果検証プロジェクトにおける成果発表数	1	2	3	3	3
⑥テスティングセンターの利用者数	0	20	150	250	300

【2021年度末における目標の達成状況】

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
①米国と、米国以外の国・地域を取り込んだ高等教育機関におけるCOIL活用実績数	0	23	15	11	
②COILを用いた発展型プログラムで実現した日米学生のモビリティ数（Multilateral COIL Program, Joint　Honors-COIL Program, Joint　AP-COIL Programを含む。In/out総数）	0	47	303	466	
③IIGEが提供するマッチングサイトを活用し成立したCOIL活動数	0	5	8	179	
④IIGE-SUNYが提供するWebinar参加者数	0	286	19	0	
⑤COIL-BEVI効果検証プロジェクトにおける成果発表数	2	4	3	6	
⑥テスティングセンターの利用者数	0	13	285	910	

（4） その他（上記（1）～（3）に該当するもの以外）

●本来実渡航で行うべきところ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてオンラインで実施した国際教育・交流プログラム

開催年月	プログラム名称	参加者数
		人
		人
		人
		人